

弘前大学農学生命科学部

# 研究業績目録

2005年10月－2006年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science

Hirosaki University

2005 (October) – 2006 (September)

弘前大学農学生命科学部

2006年12月

Faculty of Agriculture and Life Science

Hirosaki University

Hirosaki 036-8561, Japan

December, 2006

# は し が き

本号の「研究業績目録」には、2005年10月から2006年9月までの業績を掲載しました。

業績の区分は、a-研究論文、b-学術図書、c-その他の著書・訳書、d-学会発表、e-調査・実験報告書、f-その他とし、各自の申請にもとづいています。

各講座の教員組織（2006年10月1日現在）は以下の通りですが、研究業績目録は各学科・講座あるいは研究室でとりまとめて掲載してあります。

## 生物機能科学科

（生命理学講座）

鮫島正純，黒尾正樹，松岡教理，福澤雅志

（遺伝情報科学講座）

小原良孝，石田幸子，原田竹雄，石川隆二，吉田 渉

（植物エネルギー工学講座）

青山正和，葛西身延，齊藤 寛，大河 浩，千田峰生

## 応用生命工学科

（生体機能工学講座）

戸羽隆宏，長田恭一，殿内暁夫

（生体情報工学講座）

宮入一夫，橋本 勝，姫野倭太，牛田千里，高田 晃

（細胞工学講座）

片方陽太郎，大町鉄雄，菊池英明，石黒誠一，吉田 孝，畠山幸紀

## 生物生産科学科

（園芸学講座）

嵯峨紘一，荒川 修，浅田武典，本多和茂，張 樹槐

（農業生産学講座）

鈴木裕之，杉山修一，松山信彦，福地 博，松崎正敏

（環境生物学講座）

佐原雄二，比留間潔，佐野輝男，城田安幸，東 信行，田中和明，藤田 隆

## 地域環境科学科

（地域環境工学講座）

万木正弘，工藤 明，佐々木長市，萩原 守，泉 完，角野三好，加藤 幸

（地域環境計画学講座）

谷口 建，高橋照夫，桧垣大助，藤崎浩幸

（地域資源経営学講座）

高橋秀直，宇野忠義，神田健策，武田共治，澁谷長生，泉谷眞実

## 生物共生教育研究センター

澁谷長生（併任），塩崎雄之助，村山成治，伊藤大雄

## 目 次

生物機能科学科 .....	101
生命理学講座 .....	101
遺伝情報科学講座 .....	102
植物エネルギー工学講座 .....	103
応用生命工学科 .....	106
生体機能工学講座 .....	106
生体情報工学講座 .....	107
細胞工学講座 .....	110
生物生産科学科 .....	113
園芸学講座 .....	113
農業生産学講座 .....	114
環境生物学講座 .....	115
地域環境科学科 .....	119
地域環境工学講座 .....	119
地域環境計画学講座 .....	120
地域資源経営学講座 .....	120
生物共生教育研究センター .....	122

## 業 績 目 録

## 生 物 機 能 科 学 科

## 生 命 理 学 講 座

- a-01. SHIRAI, Y. \*, N. SASAKI \*, Y. KISHI \*\*, A. IZUMI \*, K. ITOH \*, M. SAMESHIMA, T. KOBAYASHI \*, K. MURAKAMI-MUROFUSHI \*: Regulation of levels of actin threonine phosphorylation during life cycle of *Physarum polycephalum*. *Cell Motility and the Cytoskeleton* **63** : 77-87, 2006. (\* Department of Biology, Ochanomizu University, \*\* Ina Institute, Medical and Biological Laboratories Co. Ltd)
- a-02. KANZAWA N \*, Y. HOSHINO \*, M. CHIBA \*, D. HOSHINO \*, H. KOBAYASHI \*, N. KAMASAWA \*\*, Y. KISHI \*\*\*, M. OSUMI \*\*, M. SAMESHIMA, T. TSUCHIYA \*: Change in the actin cytoskeleton during seismonastic movement of *Mimosa pudica*. *Plant Cell Physiol.* **47** : 531-539, 2006. (\* Faculty of Science and Technology, Sophia University, \*\* Faculty of Science, Japan Women's University, \*\*\* Ina Institute, Medical and Biological Laboratories Co. Ltd)
- a-03. YOSHIMURA, A., A. NAKATA, M. KURO-O, Y. OBARA, Y. ANDO : Molecular cytogenetic characterization and chromosomal distribution of the satellite DNA in the genome of *Oxya hyla intricata* (Orthoptera: Catantopidae). *Cytogenet. Genome Res.*, **112** : 160-165, 2006.
- a-04. 松岡教理：進化学について (2). 蒲生野, **37** : 7-12 (2005)
- a-05. 松村行栄・五十嵐聖貴・松岡教理：日本産アゲハチョウ科の分子系統学的研究. 弘前大学農学生命科学部学術報告, **8** : 1-8, 2005.
- a-06. MATSUOKA, N. : Genetic variation in two starfish, *Acanthaster planci* and *Echinaster luzonicus*, from Okinawa. *Bull. Fac. Agric. & Life Sci. Hirosaki Univ.* **8** : 9-16, 2005.
- d-01. 佐々木和也\*, 嵯峨絃一, 鮫島正純：GA<sub>3</sub>およびユニコナゾール処理がデルフィニウム鉢物の生育に及ぼす影響. 園芸学会平成17年度秋季大会. 2005. 10. 1-3. 仙台 (\*青森県農林総合研究センターフラワーセンター 21)
- d-02. 井沼道子・小原良孝・黒尾正樹：ヒメネズミの C-het に関する研究 —QM 蛍光遅延に伴う染色体 DNA の変化—. 染色体学会 2005 年度 (第 56 回) 年会, 2005.
- d-03. 片山 亮・長谷川雅美\*・森 哲\*\*・森部絢嗣\*\*\*・黒尾正樹・小原良孝：mtDNA を指標としたシマヘビの系統地理 (2). 日本爬虫両棲類学会第 44 回大会, 2005. (\*東邦大・理, \*\*京大・理, \*\*\*名大・生命農学)
- d-04. 佐々木和也\*, 嵯峨絃一, 鮫島正純：夏季および冬季における GA<sub>3</sub> 処理がシネンシス系デルフィニウムの生育に及ぼす影響. 園芸学会東北支部平成 18 年度大会. 2006. 8. 22-23. 八戸 (\*青森県農林総合研究センターフラワーセンター 21)
- d-05. 佐々木和也\*, 嵯峨絃一, 鮫島正純：日長及び温度がシネンシス系デルフィニウムの抽台に及ぼす影響. 園芸学会平成 18 年度秋季大会. 2006. 9. 23-25. 長崎 (\*青森県農林総合研究センターフラワーセンター 21)
- d-06. 高畑恵介, 柴田大輔, 福澤雅志, 鮫島正純：細胞性粘菌胞子に出現する G-アクチンを含む構造の解析. 日本植物形態学会第 18 回大会. 2006. 9. 13. 熊本
- d-07. 田中浩平, 夏目茉莉子, 鮫島正純, 福澤雅志：細胞性粘菌での発生におけるサイトカイニンの役割について. 日本植物形態学会第 18 回大会. 2006. 9. 13. 熊本
- d-08. 阿部広和, 鮫島正純, 福澤雅志：細胞性粘菌の 1R-myb 解析について. 日本植物形態学会第 18 回大会. 2006. 9. 13. 熊本
- d-09. 江田真毅\*・\*\*・黒尾正樹・長谷川博\*\*\*・樋口広芳\*\*\*\*・小池裕子\*\*：ミトコンドリア DNA の重複を考慮したアホウドリの集団構造の再検討. 日本鳥学会 2006 年度大会, 2006. (\*日本学術振興会 特別研究員, \*\*九大・比文, \*\*\*東邦大・理, \*\*\*\*東大・農)
- f-01. KATAYAMA, A., M. HASEGAWA \*, A. MORI \*\*, J. MORIBE \*\*\*, M. KURO-O, Y. OBARA : Phylogeography of *Elaphe quadrivirgata* on the basis of mtDNA (2). *Bull. Herpetol. Soc. Jpn.* **2006** : 63, 2006. (\* Faculty of Science, Toho University, \*\* Faculty of Science, Kyoto University, \*\*\* Graduate School of Bioagricultural Science, Nagoya University)
- f-02. INUMA, M., Y. OBARA, M. KURO-O : Causation of delayed QM-fluorescence in the C-blocks of *Apodemus argenteus* – Structural changes of C-heterochromatic DNA. *Chromosome Sci.*, (in press).

## 遺伝情報科学講座

- a-01. YOSHIMURA, A., A. NAKATA, M. KURO-O, Y. OBARA, Y. ANDO \*; Molecular cytogenetic characterization and chromosomal distribution of the satellite DNA in the genome of *Oxya hyla intricata* (Orthoptera: Catantopidae). *Cytogenet. Genome Res.*, **112** : 160-165, 2006. (\*弘前大学名誉教授)
- a-02. WAKASA Y \*, H KUDO , R ISHIKAWA, S AKADA \* , M SENDA \* , M NIIZEKI, T HARADA : Low expression of an endopolygalacturonase gene in apple fruit with long-term storage potential. *Postharvest Biology and Technology* **39** : 193-198. 2006 (\* NIAS, \*\* Gene Research Center, Hiroraki Univ.)
- a-03. SAKAMOTO S. \*, R. ISHIKAWA, I. NAKAMURA \*\*, Y-I. SATO \*\*\*, S. SHIMAMOTO \*\*\*\* : Species identification of 6000-years-old beans from Sannai-Maruyama site, Aomori, Japan. *Journal of fossil Research* **39** : 1-6, 2006. (\*太子食品, \*\*千葉大学大学院, \*\*\*総合地球環境学研究所, \*\*\*\*北海道大学名誉教授)
- a-04. ISHIKAWA, R., S. YAMANAKA \*, Y. FUKUTA \*\*, S. CHITRAKON \*\*\*, C. BOUNPHANOUSAY \*\*\*\* , K. KANYAVONG \*\*\*, L-H. TANG \*\*\*\*, I. NAKAMURA \*\*\*\*\*, T. SATO \*\*\*\*\*, Y-I. SATO \*\*\*\*\*: Genetic erosion from modern varieties into traditional upland rice cultivars (*Oryza sativa* L.) in northern Thailand. *Genet. Resour. Crop Evol.* **53** : 245-252, 2006. (\*独立行政法人生物資源研究所, \*\*独立行政法人国際農林水産業研究センター, \*\*\*元タイ王国パトタニ試験場イネ研究所, \*\*\*\*ラオス国立農業研究センター, \*\*\*\*中国江蘇省農業科学院, \*\*\*\*\*千葉大学大学院, \*\*\*\*\*東北大学大学院, \*\*\*\*\*総合地球環境学研究所)
- d-01. 長井和哉・川上和人\*・黒尾正樹・小原良孝：アホウドリ類における分子的性判定法. 平成 17 年度日本動物学会東北支部大会 (弘前大学) 2005. (\*森林総研・多摩森林科学園)
- d-02. 井沼道子・小原良孝・黒尾正樹：ヒメネズミの C-het に関する研究 — QM 蛍光遅延に伴う染色体 DNA の変化. 2005 年度 (第 56 回) 染色体学会年会 (弘前大学) 2005.
- d-03. 中田章史・吉村 文・吉田光明\*・黒尾正樹・小原良孝：ヒミズから単離された SINE 様配列の構造と染色体上での分布について. 2005 年度 (第 56 回) 染色体学会年会 (弘前大学) 2005. (\*放射線医学総合研究所・緊急被爆医療研究センター)
- d-04. ISHIDA, S., M. FUKUSHIMA, F. TATEBAYASHI, M. MORIKAWA, M. YAMAZAKI, K. HANATA, H. ORI \*, W. YOSHIDA : The intestinal cells have pluripotency in *Pseudostylochus intermedius* (Polycladida). 10th International Symposium on Flatworm Biology. 2006. Innsbruck, Austria. (\* Graduate school of Life Science, University of Hyogo)
- d-05. NISHITANI, S., S. ISHIDA, W. YOSHIDA, W. TESHIROGI : Polyploids and chromosomal evolution in the freshwater planarian, *Seidlia auriculata*. 10th International Symposium on Flatworm Biology. 2006. Innsbruck, Austria.
- d-06. SHOJIMA, K., K. YUKITA, S. ISHIDA : The differentiation process of the protonephridium from specific alkaline phosphatase expressive cells during embryogenesis of the polyclad *Pseudostylochus intermedius*. 10th International Symposium on Flatworm Biology. 2006. Innsbruck, Austria.
- d-07. YOSHIDA, W., H. YAMAYA, M. OWADA, Y. SHINOZAKI, S. ISHIDA : Expression pattern of anterior *HOM/HOX* genes during embryogenesis in polyclads. 10th International Symposium on Flatworm Biology. 2006. Innsbruck, Austria.
- d-08. 福島 誠・橋爪 力\*・吉田 渉・石田幸子：淡水棲プラナリアにおけるテストステロン検出と生殖器官の発達度合による量的変動. 日本動物学会第 77 回大会 (鳥根大学), 2006. (\*岩手大・農学)
- d-09. 山野弘幸・高久未央・藤井 武・中村哲郎・吉田 渉・石田幸子：ナツドマリヒラムシの生殖細胞発達過程での *vasa*, *nanos* ホモログの発現. 日本動物学会第 77 回大会 (鳥根大学), 2006.
- d-10. 王 愛徳・原田竹雄 リンゴ ‘ふじ’ と芽条変異体 ‘ひろさきふじ’ の果実硬度低下速度の違いに関する分子機構の解明. 「見てみて, 聞いてみて, 触ってみて, 弘前大学」へのポスター発表 2006 年 9 月
- d-11. 工藤久幸・千田峰生\*・石川隆二・赤田辰治\*・原田竹雄 Me トマトを台木にしたジャガイモ穂木葉の形質転換東北育種談話会 (山形大学) 2006 年 8 月 (\*弘前大学遺伝子実験施設)
- d-12. 原田竹雄 リンゴの科学: ‘ふじ’ の優良遺伝子とは? 弘前大学シニアサマーカレッジ 2006 年 9 月
- d-13. WAKASA Y, WANG A, HARADA T. 2006 The expression analysis of ripening-related genes among apple cultivars exhibiting different fruit storage potential. The Second International Symposium on Apple Production. Yan Tai, China
- d-14. 工藤久幸・千田峰生\*・石川隆二・赤田辰治\*・新関 稔\*\*・原田竹雄: Me トマトを台木にしたジャガイモ穂木葉の形質転換 育種学研究 8 (別 1) (東京農工大) 2006 年 3 月 (\*弘前大学遺伝子実験施設, \*\*弘前大学名誉教授)

- d-15. 原田竹雄：リンゴについての遺伝子研究. 平成 17 年度東北農業試験研究推進会議・生物工学推進部会. 重点検討事項の検討『今後の生物工学研究の展開方向』盛岡市 2006 年 2 月
- d-16. 原田竹雄：リンゴの遺伝子研究. 農学生命科学部公開講座『りんごを科学する』. 板柳町 2005 年 12 月
- d-17. ISHIKAWA, R., K. IMAI\*, N. TOKI\*\*, T. AOKI\*\*\*, A. KAWASAKI: Association mapping to characterize diagnostic markers for indica-japonica differentiation. Fifth Rice Genetic Symposium. (Philippines) 2006. (\*岩手大学連合大学院農学研究科, \*\*独立行政法人生物資源研究所, \*\*\*栃木県小山市)
- d-18. IMAI, K. \*, Y. CHIBA, M. MURAI\*\*, R. ISHIKAWA: Mapping of *Undulated rachis-1* originated from mutable strain, Akage, on a molecular map. Fifth Rice Genetic Symposium. (Philippines) 2006. (\*岩手大学連合大学院農学研究科, \*\*高知大学)
- d-19. 石川隆二・今井克則\*・川崎顕子・信田清夏\*\*・千葉悠貴・本間照久・千田峰生\*\*\*・赤田辰治\*\*\*・原田竹雄・新関 稔\*\*\*\*: イネ連鎖不平衡マッピングの応用 V. 集団構造の解析と系統分化に関連した候補遺伝子座の特定. 日本育種学会第 109 回講演会 (東京農工大) 2006. (\*岩手大学連合大学院農学研究科, \*\*千葉大学大学院, \*\*\*弘大遺伝子実験施設, \*\*\*\*弘前大学名誉教授)
- d-20. 石川隆二・千葉悠貴・川崎顕子・今井克則\*・小林伸哉\*\*・福田善通\*\*\*: インド型品種, IR24 派生系統から得られた易変異性系統の解析: 根の異常性を呈する新規変異体. 日本育種学会第 110 回講演会 (愛媛大) 2006. (\*岩手大学連合大学院農学研究科, \*\*IRRI, \*\*\*独立行政法人国際農林水産業研究センター)
- d-21. 今井克則\*・千葉あや乃・千葉悠貴・高牟禮逸朗\*\*・村井正之\*\*\*・千田峰生\*\*\*\*・赤田辰治\*\*\*\*. 原田竹雄・石川隆二: イネ枝梗湾曲-1 遺伝子, *Ur1* の分子選抜マーカーの特定. 日本育種学会第 110 回講演会 (愛媛大) 2006. (\*岩手大学連合大学院農学研究科, \*\*北大院農, \*\*\*高知大農, \*\*\*\*弘大遺伝子実験施設)
- d-22. 千葉悠貴・石川隆二・今井克則\*・千葉あや乃・高牟禮逸朗\*\*: 赤毛自殖後代で生じた新規突然変異体の遺伝解析. 日本育種学会第 110 回講演会 (愛媛大) 2006. (\*岩手大学連合大学院農学研究科, \*\*北大院農)
- d-23. 本間照久・波多野佑一・千田峰生\*・赤田辰治\*. 原田竹雄・石川隆二: 日印交雑で生じた易変異系統の特性解析: クロリナ変異とキメラ制御遺伝子の解析. 日本育種学会第 110 回講演会 (愛媛大) 2006. (\*弘大遺伝子実験施設)
- d-24. 石川隆二: 日本文化と農耕の起源—三内丸山遺跡にみる縄文農耕の可能性. 農学生命科学部 50 周年記念地域支援事業公開シンポジウム. 2006 (弘前)
- e-01. 小原良孝 (哺乳類担当) 青森県外来種対策学術調査報告書 —青森県外来種リスト—. 青森県 2006.
- e-02. 小原良孝 (哺乳類担当) 青森県の希少な野生生物 —青森県レッドリスト (2006 年 改訂増補版)—. 青森県 2006.
- e-03. SATO, Y-I, R. ISHIKAWA, L-H, TANG: III. RICE Sikkim (India), northwest Vietnam, Philippines, Thai-Laos-Cambodia, Lucknow (India), (Project leader. K. Takeda), in Genetic assay and study of crop germplasm in and around China (3<sup>rd</sup>), A report of Grant-in-Aid for Scientific Research (A) (2) (2003-2005), pp. 5-20, 2006.
- f-01. 小原良孝: 野生動物学特論. 東京農業大学農学特別講義. (東京農大), 2005.
- f-02. 石川隆二 縄文農耕を考える (対談集). 縄文ファイル 132, pp 3-7, 2006, NPO 法人三内丸山縄文発信の会, 青森.
- f-03. 石川隆二 三内丸山遺跡にみられる植物の利用～ヒトは食べられる植物を選抜していたのか～ 三内丸山から縄文ムーブメント. 隔月間あもり草子, pp. 12-14, 2006 年 10 月 1 日発行, 企画集団ぶりずむ, 青森.

### 植物エネルギー工学講座

- a-01. 青山正和: 有機成分, 部門別進歩総説 第 2 部門 土壌化学・土壌鉱物, 日本土壌肥科学雑誌, **76**: 698-701, 2005.
- a-02. AOYAMA, M., B. ZHOU\*, M. SAITOH\*\* and N. YAMAGUCHI\*\*: Microbial biomass in soils with calcium accumulation associated with the application of composted lime-treated sewage sludge. *Soil Science and Plant Nutrition* **52**: 177-185, 2006. (\* Soil and Fertilizer Institute, Heilongjiang Academy of Agricultural Sciences, \*\* Aomori Prefectural Agriculture and Forestry Research Center)
- a-03. AOYAMA, M.: Properties of neutral phosphate buffer extractable organic matter in soils revealed using size exclusion chromatography and fractionation with polyvinylpyrrolidone. *Soil Science and Plant Nutrition* **52**: 378-386, 2006.
- a-04. MATSUMURA, H.\*<sup>1</sup>, S. WATANABE\*<sup>2</sup>, K. HARADA\*<sup>2</sup>, M. SENDA, S. AKADA\*<sup>3</sup>, S. KAWASAKI\*<sup>4</sup>, E. DOUBOUZET\*<sup>5</sup>, N. MINAKA\*<sup>6</sup> and R. TAKAHASHI\*<sup>5</sup>: Molecular linkage mapping and phylogeny of the chalcone synthase multigene family in soybean. *Theoretical and Applied Genetics* **110**: 1203-1209, 2005. (\*<sup>1</sup>University of Tsukuba, \*<sup>2</sup>Chiba University, \*<sup>3</sup>Gene Research Center, Hirosaki University, \*<sup>4</sup>National Institute of Agrobiological



- Sciences, <sup>\*5</sup>National Institute of Crop Science, <sup>\*6</sup>National Institute of Agro-Environmental Sciences)
- a-05. WAKASA, Y., H. KUDO, R. ISHIKAWA, S. AKADA \*, M. SENDA, M. NIIZEKI and T. HARADA : Low expression of an endopolygalacturonase gene in apple fruit with long-term storage potential. *Postharvest Biology and Technology* **39** : 193-198, 2006. (\* Gene Research Center, Hirosaki University)
- a-06. OSADA, K., T. SUZUKI, Y. KAWAKAMI, M. SENDA, A. KASAI, M. SAMI \*, Y. OHTA \*, T. KANDA \* and M. IKEDA \* : Dose-dependent hypocholesterolemic actions of dietary apple polyphenol in rats fed cholesterol. *Lipids* **41** : 133-139, 2006. (\* Asahi Breweries)
- a-07. 山本英樹\*・千田峰生：秋田県のカキにおけるカキ微斑ウイルスの発生状況. 北日本病虫研報 **56** : 79-80, 2005. (\*秋田農試)
- a-08. KEREN, N \*, H. OHKAWA, E.A. WELSH \*\*, M. LIBERTON \*\* and H.B. PAKRASI \*\*: Psb29, a conserved 22-kD protein, functions in the biogenesis of Photosystem II complexes in *Synechocystis* and *Arabidopsis*. *Plant Cell* **17** : 2768-2781, 2005. (\* Hebrew University of Jerusalem, \*\* Washington University)
- a-09. KAHLON, S. \*, K. BEERI \*, H. OHKAWA, Y. HIHARA \*<sup>2</sup>, O. MURIK \*, I. SUZUKI \*<sup>3</sup>, T. OGAWA \*<sup>4</sup> and A. KAPLAN \*<sup>1</sup> : A putative sensor kinase, Hik31, is involved in glucose sensing in *Synechocystis* sp. strain PCC6803. *Microbiology* **152** : 647-655, 2006. (\*<sup>1</sup> Hebrew University of Jerusalem, \*<sup>2</sup> Saitama University, \*<sup>3</sup> National Institute for Basic Biology, \*<sup>4</sup> Nagoya University)
- b-01. 青山正和：高速サイズ排除クロマトグラフィーによる堆肥腐熟度の推定, 東北の農業と土壌肥料, 189-190 頁, 日本土壌肥料学会東北支部, 2006.
- c-01. 青山正和：堆肥と腐植, 堆肥とことん活用読本, 186-191 頁, 農文協, 2006.
- c-02. 千田峰生・増田 税\*: ダイズ種子の着色メカニズムに迫る! 黄ダイズの種皮着色抑制に転写後型ジーンサイレンシングが関与. 化学と生物 **43** : 220-221, 2005. (\*北海道大学大学院農学研究科)
- c-03. 千田峰生：ウイルスが大豆の上に絵を描く. *RNA Network Newsletter* **4** : 28-30, 2006.
- d-01. 青山正和・村山美穂：カラシナによる土壌からの銅と鉛の吸収に及ぼす腐植物質の影響, 日本腐植物質学会第 21 回講演会講演要旨集, 12-13, 2005.
- d-02. 青山正和：バイオス醗酵過程における腐植物質の生成機構と農業生産性向上, 日本腐植物質学会第 21 回講演会講演要旨集, 18-19, 2005.
- d-03. 青山正和・山谷すみれ：土壌微生物による植物遺体の分解過程で生成する水溶性タンパク質の性状, 日本土壌肥料学会講演要旨集 **52** : 27, 2006.
- d-04. 高木陽子・青山正和：リンゴ園土壌表層への堆肥施用が土壌微生物バイオマスに及ぼす影響, 日本土壌肥料学会講演要旨集 **52** : 29, 2006.
- d-05. 保嶋敬子・青山正和：乾燥リンゴ搾り粕の土壌改良資材としての利用—植物生育ならびに土壌の物理性と生物性に及ぼす影響—, 日本土壌肥料学会講演要旨集 **52** : 159, 2006.
- d-06. 福田悠希・葛西身延：ダイズのソース・シンク比と光合成の制御の関係. 第 70 回日本植物学会, 2006.
- d-07. 小口祐輔・葛西身延：ダイズのシンク・リミット状態における光合成とプロトンポンプ活性. 第 70 回日本植物学会, 2006.
- d-08. 千田峰生・葛西宏介\*・葛西厚史：黄ダイズの種皮着色をつかさどる *I* 遺伝子の構造的特徴. 日本育種学会第 109 回講演会 (東京農工大学) 2006. (\*弘前大学医学部保健学科)
- d-09. 葛西厚史・赤田辰治\*・石川隆二・原田竹雄・新関 稔・千田峰生：*I* 遺伝子転写産物は黄ダイズ種皮において *CHS* 遺伝子の 2 本鎖 RNA を形成するか? 日本育種学会第 109 回講演会 (東京農工大学) 2006. (\*弘前大学遺伝子実験施設)
- d-10. 大久保喜光・葛西厚史・千田峰生：トランスジェニックアラビドプシスをを用いたダイズ種皮着色抑制遺伝子 (*I* 遺伝子) の組織発現に関する研究. 東北育種研究集会 (山形大学) 2006.
- d-11. 徳富 (宮尾) 光恵\*, 大河 浩, 谷口 洋二郎\*, 深山 浩\*: ゲノムから見た炭素代謝関連遺伝子. 日本植物学会第 70 回大会シンポジウム, 2006. (\*農業生物資源研究所)
- e-01. 青山正和：環境修復への利用をめざした腐植物質のキャラクターゼーション, 平成 15 年度～平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C) 研究成果報告書, 1-60 頁, 2006.
- e-02. 葛西身延：光合成物質生産の新規制御物質の分離同定とソース・シンク制御機構の総合的研究. 平成 16～17 年度科学研究費補助金研究成果報告書. 2006.
- f-01. 青山正和：りんご剪定枝の堆肥利用の課題, 第 1 回未利用バイオマスセミナー「未利用バイオマスとしてのりんご剪定枝の利用—その課題と地域内連携—」, 弘前大学農学生命科学部附属未利用バイオマス研究センター, 2006.

- f-02. 青山正和：リンゴ搾り粕の有機質土壌改良資材としての利用，第2回未利用バイオマスセミナー「バイオマスとしてのリンゴ絞り粕の活用方策—その課題と地域内連携—」，弘前大学農学生命科学部附属未利用バイオマス研究センター，2006.
- f-03. FUKUDA, Y. and KASAI, M. : The effect of pod removal on photosynthesis in soybean plants. J. Plant Res. Suppl. : 98, 2005.
- f-04. 千田峰生：ダイズ種皮着色抑制遺伝子によるアントシアニン生合成の抑制機構. ミヤコグサ・ダイズワークショップ（理化学研究所）2005.
- f-05. 千田峰生：黄大豆の種皮着色抑制にはたす endogenous RNA silencing の役割について. 山形県立園芸試験場バイオ育種部セミナー 2005.
- f-06. 千田峰生：ウイルスが大豆の上で RNAi をさけぶ —大豆が黄色い理由について— 弘前大学遺伝子実験施設竣工10周年記念シンポジウム（弘前大学創立50周年記念会館）2006.
- f-07. 姫野侑太・武藤あきら・牛田千里・佐野輝男・原田竹雄・鬼島 宏\*・種田晃人\*\*・千田峰生：機能性 RNA を基盤とする新技術開発のための基礎研究とその展開. 「見てみて，聞いてみて，触ってみて，弘前大学」（弘前シティホテル）2006. (\*弘前大学医学部, \*\*弘前大学理工学部)



## 応用生命工学科

### 生体機能工学講座

#### 食品安全学研究室

- a-01. HORIE, M., MURAKAMI, T., SATO, T., TARUSAWA, Y., NAKAMURA, S., TOBA, T. : Anaerobic induction of adherence to laminin in *Lactobacillus gasseri* strains by contact with solid surface. *Curr. Microbiol.* **51** : 275-282, 2005.
- b-01. 戸羽隆宏：乳酸菌発酵食品の製造と生理機能. 齋藤忠夫・西村敏英・松田 幹編 最新畜産物利用学 55-66 頁, 朝倉書店, 2006.
- d-01. 村上恵光・高杉美波・青木裕史<sup>1)</sup>・片方陽太郎・佐藤 征<sup>2)</sup>・大友良光<sup>2)</sup>・戸羽隆宏：乳酸菌による皮膚有害菌の付着阻止. 平成 18 年度日本酪農科学シンポジウム要旨. p. 19, 2006. (<sup>1)</sup> 昭和電工 (株) 研究開発センター, <sup>2)</sup> 本学医学部保健学科)

#### 食品栄養化学研究室

- a-01. OSADA K, SUZUKI T, KAWAKAMI Y, SENDA M, KASAI A, SAMI M, OHTA Y, KANDA T, IKEDA M. : Dose-dependent hypocholesterolemic actions of dietary apple polyphenol in rats fed cholesterol. *Lipids* **Vol. 41** : 133-139, 2006.
- a-02. OSADA K, FUNAYAMA M, FUCHI S, SAMI M, OHTA Y, KANDA T, IKEDA M. : Effects of dietary procyanidins and tea polyphenols on adipose tissue mass and fatty acid metabolism in rats on a high fat diet. *Journal of Oleo Science* **Vol. 55** : 79-89, 2006.
- a-03. OHTA Y, SAMI M, KANDA T, SAITO K, OSADA K, KATO H. : Gene expression analysis of the anti-obesity effect by apple polyphenols in rats fed a high fat diet or a normal diet. *Journal of Oleo Science* **Vol. 55** : 305-314, 2006.
- a-04. 山口 彩, 藤田恵子, 和田哲哉, 長田恭一, 山谷修. 脂質代謝と抗酸化機能に与えるサメ肝油由来高純度スクアレンの摂取による影響の検証. *脂質生化学研究* **Vol. 48** : 152-155, 2006.
- a-05. 佐々木文之, 石川絵理, 長利 卓, 佐藤玲子, 竹本成孝, 本田真也, 藤兼洋一, 鈴木喬士, 長田恭一. 茶葉飲料のポリフェノールレベルとフリーラジカル捕捉機能, ならびにプロシアニジン類の抗酸化機能の検証. 弘前大学農学生命科学部学術報告, **Vol. 8** : 24-28, 2006.
- b-01. 長田恭一. 脂質の栄養: エッセンシャル基礎栄養学, 宮本賢一ら編, 第 5 章 医歯薬出版 (東京), p 59-66, 2005.
- d-01. 長田恭一. シンポジウム: りんご未熟果実のプロシアニジン化合物による脂質代謝調節機能に関する基礎研究. 平成 17 年度 日本栄養食糧学会東北支部会 (盛岡). 2005
- d-02. 山口 彩・鈴木喬士・藤兼洋一・長田恭一・山谷 修. 肝油由来スクアレン投与による脂質代謝調節作用の解明. 日本栄養食糧学会東北支部会 (盛岡). 2005
- d-03. 藤兼洋一・佐々木輔・清澤朋子・長田恭一・葛西厚史・千田峰生・菅野道廣. 食事由来酸化コレステロールによる脂質代謝攪乱作用の機序解明. 平成 17 年度 日本栄養食糧学会東北支部会 (盛岡). 2005.
- d-04. 鈴木喬士・山口 彩・長田恭一・神田智正・佐見 学・太田 豊・池田満雄. りんご未熟果実由来プロシアニジン摂取によるコレステロール代謝調節作用の機序解明. 平成 17 年度 日本栄養食糧学会東北支部会 (盛岡). 2005.
- d-05. 鈴木喬士・山口 彩・長田恭一・神田智正・佐見 学・太田 豊・池田満雄. りんご未熟果実由来プロシアニジン摂取による肥満抑制作用と脂質代謝調節機能. 2005 年度日本農芸化学会東北支部会. 2005. (鶴岡).
- d-06. NAKAMURA, S, OSADA K, FUNAZAWA. R. : Antioxidant activity of water-soluble fraction of Chinese Indigo. 第 17 回日本 MRS 学術シンポジウム (東京) 2005.
- d-07. 藤兼洋一・川岸 由・長田恭一・菅野道廣. 食餌由来酸化コレステロール摂取濃度に応じた代謝変動の解明. 2006 年度日本農芸化学会 (京都) 2006.
- d-08. 山口 彩・藤田恵子・鈴木喬士・藤兼洋一・長田恭一・山谷 修. サメ肝油スクワレンと DHA リッチ油脂コンビネーションによる脂質代謝調節作用追究. 2006 年度日本農芸化学会 (京都) 2006.
- d-09. 長田恭一・船山 誠・清野博威・太田 豊・砂川忠広・佐見 学・神田智正・大竹康之. 糖尿病モデルラットに対するリンゴポリフェノール摂取の影響. 2006 年度日本農芸化学会 (京都) 2006.
- d-10. 山口 彩・藤田恵子・鈴木喬士・藤兼洋一・長田恭一・山谷 修. 脂質代謝および抗酸化機能に与えるサメ肝油

スクワレン+ DHA リッチ油脂の投与効果. 第 60 回日本栄養食糧学会 2006 (静岡)

- d-11. 長田恭一・船山 誠・清野博威・太田 豊・砂川忠広・佐見 学・神田智正・大竹康之. リンゴポリフェノール摂取による糖尿病予防および抗酸化強化作用. 第 60 回日本栄養食糧学会 2006 (静岡)
- d-12. 長田恭一. 特別講演 内蔵脂肪減らして防ごう生活習慣病:りんごポリフェノールの効用. 2006 年度日本フラボノイド研究会近畿大会 (大阪). 2006.
- d-13. 長田恭一. 特別講演 内蔵脂肪減らして防ごう生活習慣病:りんごポリフェノールの効用. 2006 年度日本フラボノイド研究会中部北陸大会 (岐阜). 2006.
- d-14. 長田恭一. 招待講演 鮫肝油由来高純度スクワレンの脂質代謝および抗酸化機能に与える作用. 2006 年度油化学セミナー (日本油化学会主催) (函館). 2006.

### 応用微生物学研究室

- a-01. MIZUKAMI, S., TAKEDA, K., AKADA, S., FUJITA, T. Isolation and Characteristics of *Methanosaeta* in paddy field soils. *Biosci. Biotechnol. Biochem.* **70**, 828-835 (2006)
- a-02. SUKTHAI, P., 佐々木長一・松山信彦・野田香織・殿内暁夫:カドミウム汚染水田の浸透型が物質動態および水稻に及ぼす影響. *土壤の物理性* **101**:17-26 (2005)
- a-03. 武田 潔:白神山地の窒素固定菌の研究. *白神研究* **3**:26-31 (2006)
- a-04. 佐々木長市・松山信彦・本多和茂・殿内暁夫・野田香織・佐瀬 隆:白神山地における土壤 (3). *白神研究* **3**:45-52 (2006)
- a-05. 村中文人・岩間直子・斉藤知明・殿内暁夫・赤田辰治・武田 潔:カプロン酸エチル高生産株を用いたリンゴ搾り粕からのフレーバーアルコール生産:日本醸造協会誌 **101**:711-716 (2006)
- d-01. 殿内暁夫・野呂剛司:水田土壌から分離した新規な糸状菌について. 第 21 回日本微生物生態学会講演要旨集. p. 48. (2005)
- d-02. 舘山明日佳・犀川陽子<sup>1</sup>・橋本貴美子<sup>2</sup>・中田雅也<sup>1</sup>・殿内暁夫・奥野智旦<sup>3</sup>・宮入一夫:毒キノコ、オオシロカラカサタケの毒性メタロエンドペプチダーゼの精製と切断特異性. 日本農芸化学会東北支部第 140 回大会 (鶴岡) (2005)
- d-03. 岩間直子・斉藤知明<sup>1</sup>・殿内暁夫・宮入一夫・武田 潔:麹菌 *Aspergillus oryzae* における糖化酵素高発現および褐変性に関する研究. 2006 年度日本農芸化学会講演要旨集 p. 83. (2006)
- d-04. 村中文人・岩間直子・斉藤知明・殿内暁夫・赤田辰治・武田 潔:りんご搾汁残渣からのフレーバーアルコールに関する研究. 2006 年度日本農芸化学会講演要旨集 p. 271. (2006)
- d-05. 佐々木長市・川島一就・松山信彦・野田香織・殿内暁夫:カドミウム汚染水田モデルの浸透型が物質動態および水稻に及ぼす影響. *農業土木学会講演要旨集*. pp 822-823. (2005)
- d-06. 松山信彦・工藤予志夫・境谷栄二・殿内暁夫・工藤啓一:施肥により強酸性化したアロフェン質黒ボク土の特徴. *日本土壤肥料学会* (2006)
- d-07. 大久保敦史・殿内暁夫・杉山修一:ナタネとレンゲ根圏における土壤微生物群集構造の比較. *日本作物学会第 221 講演会 (東京大学)* (2006)
- d-08. 大久保敦史・殿内暁夫・杉山修一:根圏微生物群集の作物間差異 - PCR - DGGE 法による解析. *植物微生物研究会第 16 回研究交流会 (北海道大学)* (2006)

### 生体情報工学講座

#### 生化・有機化学研究室

- a-01. 橋本 勝:ピラノース環酸素を硫黄原子で置換したチオオリゴサッカリドの合成研究. *有機合成化学協会誌*, **64** (7), 766-777 (2006).
- a-02. SHIMIZU, T<sup>1</sup>., ARAYA, T., SHIBATA, H<sup>2</sup>., NAKATSU, T<sup>1</sup>., MIYAIRI, K., OKUNO, T., KATO, H<sup>1</sup> : Expression, purification and crystallization of endopolygalacturonase from a pathogenic fungus, *Stereum purpureum*, in *Escherichia coli*. *Protein Expression and Purification*. **44**, 130-135 (2005). (<sup>1</sup> Pharmaceutical Science, Kyoto University, <sup>2</sup> RIKEN Harima Institute)
- c-01. 村上貴宣, 橋本 勝:マイコパラサイトの化学, リンゴ果実夏念珠病に関わる宿主菌にダメージを与える Lambertellol 類. *化学と生物*, **44**(4), 217 (2006).
- c-02. 橋本 勝:分子モデリングソフトの講義への利用 コンピュータ分子設計学を例として. 弘前大学総合情報処理

- センター広報 HIROIN, **23**, 63-70 (2006).
- c-03. 橋本 勝：菌代謝産物の新展開. 岩手大学連合大学研究科広報 RURUKA NEWS, 6, May (2006).
- c-04. 橋本 勝, 山崎裕子：ナフタレノン化合物とその植物病害防除用途. 特開 2005-206259.
- c-05. 橋本 勝, 姫野倭太, 村上貴宣, 奥野智旦：新規環状チオペプチドおよびその取得方法. 特願 2006-0580680.
- c-06. 志村華子, 高田 晃, 幸田泰則：ランと菌の生存を賭けた闘争 レブナアツモリソウの共生発芽実験から見た「共生」の実体. 化学と生物, **44**(4), 261-264 (2006).
- d-01. 山本和範, 渡辺直樹, 新谷智行, 橋本 勝, 宮入一夫, 奥野智旦, 岡崎 功, 斉藤 稔, 清水哲也, 加藤博章：エンドポリガラクトツロナーゼ反応機構解明を目指した硫黄置換オリゴガラクトツロン酸の設計と合成. 47回天然有機化合物討論会(徳島).
- d-02. 荒添圭朗, 山本和範, 佐藤 佑, 橋本 勝, 奥野智旦：*endo*-PG 1の反応機構解明を目指した遷移状態アナログの合成. 日本農芸化学会東北支部第140回大会(鶴岡).
- d-03. 村上貴宣, 橋本 勝, 奥野智旦：安定同位体取り込みを利用した *neolambertellin* の同定とその構造決定. 日本農芸化学会東北支部第140回大会(鶴岡).
- d-04. 村上貴宣, 橋本 勝, 奥野智旦：Cyclothiazomycin Bの構造研究 —立体化学の決定—. 日本農芸化学会東北支部第140回大会(鶴岡).
- d-05. 山本和範, 新谷智行, 橋本勝, 宮入一夫, 奥野智旦, 岡崎 功, 斉藤 稔：*endo*-PG 1反応機構解明を目指した硫黄置換オリゴガラクトツロン酸の設計と合成. 日本農芸化学会東北支部第140回大会(鶴岡).
- d-06. MURAKAMI, T.; SASAKI, A.; FUKUSHI, E.; KAWABATA, J.; HASHIMOTO, M.; OKUNO, T.: Optimization of isotope-labeling conditions for *lambertellin* based on isotope patterns observed by mass spectrometry. The 2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (ホノルル).
- d-07. YAMAMOTO, K., MIYAIRI, K., OKUNO, T., SAITO, M., HASHIMOTO, M.: Design and synthesis of a sulfur substituted analogue of trigalacturonic acid as a molecular probe for *endo*-PG I. The 2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (ホノルル).
- d-08. MURAKAMI, T.; HASHIMOTO, M.; FUKUSHI, E.; KAWABATA, J.; OKUNO, T.: Isolation and biosynthesis of *lambertellols* from mycoparasitic fungi *Lambertella* sp. 1346. The 2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (ホノルル).
- d-09. 村上貴宣, 橋本 勝, 奥野智旦, 姫野倭太：Cyclothiazomycin B1, B2の構造とその立体化学. 日本農芸化学会2006年度大会(京都).
- d-10. 木村天胤, 村上貴宣, 橋本 勝, 奥野智旦, 武藤 昱, 姫野倭太：大腸菌リボソーム小サブユニットで活性化される新規GTPase (RsgA)に作用するCyclothiazomycin B1の作用. 日本農芸化学会2006年度大会(京都).
- d-11. 村上貴宣, 橋本 勝, 奥野智旦：マイコパラサイトと *lambertellol* 類の生産性との関連性について. 日本農芸化学会2006年度大会(京都).
- d-12. 山本和範, 荒添圭朗, 橋本 勝, 奥野智旦：*endo*-PG 1基質遷移状態モデルの合成研究. 日本農芸化学会2006年度大会(京都).
- d-13. 村上貴宣, 奥野智旦, 木村天胤, 姫野倭太, 橋本 勝：Cyclothiazomycin B1, B2の単離・構造決定・RsgAに対する活性. 新規素材探索研究会 第5回セミナー(静岡).
- d-14. MURAKAMI, T.; KIMURA, T.; OKUNO, T.; HIMENO, H.; HASHIMOTO, M.: Isolation, structure determination, and biological properties of cyclothiazomycins B1 and B2. ICOB-5 & ISCNP-25 IUPAC International conference on Biodiversity and Natural Products (京都).
- d-15. HSHIMOTO, M.; YAMAMOTO, K.; SAITO, M.; MIYAIRI, K.; OKUNO, T.: Synthetic Studies of Oligogalacturonate as Molecular Probes for *endo*-PG 1. ICOB-5 & ISCNP-25 IUPAC International conference on Biodiversity and Natural Products (京都).
- d-16. 橋本 勝：リンゴ果実におけるマイコパラサイトの化学的研究. サントリー生物有機科学研究所月例コロキウム(大阪).
- d-17. 橋本 勝：ピラノース環酸素を硫黄原子で置換したオリゴサッカリドの合成研究. 関西学院大学理工学部講演会(兵庫).
- d-18. 舘山明日佳, 犀川陽子<sup>1</sup>, 橋本貴美子<sup>2</sup>, 中田雅也<sup>1</sup>, 殿内暁夫, 奥野智旦, 宮入一夫：毒キノコ, オオシロカラカサタケの毒性メタロエンドペプチダーゼの精製と切断特異性. 日本農芸化学会東北支部第140回大会(鶴岡)(<sup>1</sup>慶応大・理工, <sup>2</sup>京薬大).
- d-19. 清水哲哉<sup>1</sup>, 中津 亨<sup>1</sup>, 清水伸隆<sup>2</sup>, 佐藤 衛<sup>2</sup>, 栗原和男<sup>3</sup>, 宮入一夫, 奥野智旦, 新村信雄<sup>4</sup>, 山本雅貴<sup>2</sup>, 加藤



博章<sup>1</sup>: リンゴ銀葉病菌由来エンドポリガラクトソナーゼの超高分解能 X 線結晶構造解析と高分解能中性子結晶構造解析. 日本結晶学会 (姫路) (<sup>1</sup>京大院薬, <sup>2</sup>理研播磨, <sup>3</sup>横浜市大院総合理・原研機構, <sup>4</sup>茨城大院理工).

- d-20. 柴田泰成, 工藤真紀子, 奥野智且, 宮入一夫: *Pleurotus eryngii* の 2 成分性ヘモリシン A, B の単離と性質. 日本農芸化学会 2006 年度大会 (京都)
- d-21. 新谷智行, 清水哲哉<sup>1</sup>, 中津 亨<sup>1</sup>, 加藤博章<sup>1</sup>, 吉田 孝, 奥野智且, 宮入一夫: *Stereum purpureum* 由来エンドポリガラクトソナーゼ I における Asn92 結合糖鎖の熱安定性への関与. 日本農芸化学会 2006 年度大会 (京都) (<sup>1</sup>京都大薬).
- d-22. 石井絵里子, 数馬恒平<sup>1</sup>, 宮入一夫, 奥野智且: ベニバナ花卉由来のグルコース転移酵素について. 日本農芸化学会 2006 年度大会 (京都) (<sup>1</sup>青森グリーンバイオ).
- d-23. 堀部雅史<sup>1</sup>, 小林夕香<sup>1</sup>, 道羅英夫<sup>1</sup>, 松浦正憲<sup>2</sup>, 山田美奈<sup>2</sup>, 犀川陽子<sup>2</sup>, 宮入一夫, 奥野智且, 橋本貴美子<sup>3</sup>, 中田雅也<sup>2</sup>, 河岸洋和<sup>1</sup>: ドクヤマドリ由来の毒性レクチンについて. 日本農芸化学会 2006 年度大会 (京都) (<sup>1</sup>静岡大農, <sup>2</sup>慶応大・理工, <sup>3</sup>京都薬科大).
- d-24. 山谷 聡, 木皿正人, 浅野純平, 宮入一夫, 奥野智且<sup>1</sup>: リンゴ花粉タンパクと花柱 S-RNase の相互作用について. 日本農芸化学会 2006 年度大会 (京都) (<sup>1</sup>秋田看福大).
- d-25. 岩間直子<sup>1</sup>, 斉藤知明<sup>1</sup>, 殿内暁夫, 宮入一夫, 武田 潔: 麹菌 *Aspergillus oryzae* における糖化酵素高発現および褐変性に関する研究. 日本農芸化学会 2006 年度大会 (京都) (1 青森工総セ・弘前技研).
- d-26. 堀部雅史<sup>1</sup>, 小林夕香<sup>1</sup>, 茶山和敏<sup>1</sup>, 道羅英夫<sup>1</sup>, 松浦正憲<sup>2</sup>, 山田美奈<sup>2</sup>, 犀川陽子<sup>2</sup>, 宮入一夫, 奥野智且, 橋本貴美子<sup>3</sup>, 中田雅也<sup>2</sup>, 河岸洋和<sup>1</sup>: ドクヤマドリ由来の毒性レクチンの精製と性質第 78 回日本生化学大会 (神戸) (<sup>1</sup>静岡大農, <sup>2</sup>慶応大・理工, <sup>3</sup>京都薬科大).
- d-27. 高田 晃<sup>1</sup>, 松野純子<sup>1</sup>, 幸田泰則<sup>1</sup>: ダイズの一回収実性老化を制御する内生因子に関する研究. 47 回天然有機化合物討論会 (徳島) (<sup>1</sup>北大院農).
- d-28. 伴戸香月<sup>1</sup>, 高田 晃<sup>1</sup>, 幸田泰則<sup>1</sup>: コムギの座死を引き起こす内生因子. 平成 17 年度北海道談話会 (札幌) (<sup>1</sup>北大院農).
- d-29. 伴戸香月<sup>1</sup>, 高田 晃<sup>1</sup>, 幸田泰則<sup>1</sup>: コムギの座死に関する内生因子. 日本農芸化学会 2006 年度大会 (京都) (<sup>1</sup>北大院農).
- d-30. 松浦真弓<sup>1</sup>, 志村華子<sup>1</sup>, 高田 晃<sup>1</sup>, 幸田泰則<sup>1</sup>: レブンアツモリソウ幼植物が生産する抗菌物質. 日本農芸化学会 2006 年度大会 (京都) (<sup>1</sup>北大院農).
- d-31. 木村天胤, 村上貴宣, 橋本 勝, 奥野智且, 武藤 昱, 姫野俵太: 新規抗生物質による RsgA の GTP 加水分解阻害メカニズムの解析, 第 8 回日本 RNA 学会年会 (淡路).
- f-01. 宮入一夫: 未利用資源活用の魔法の技術. 市民公開講座. 2005.
- f-02. 宮入一夫: リンゴペクチンの機能性. 附属生物共生教育センター藤崎農場公開講座. りんごを科学する (板柳).
- f-03. 宮入一夫: リンゴ絞り粕からのペクチンオリゴ糖の簡易製造法とその利用. 第 2 回未利用バイオマス・セミナー.
- f-04. 宮入一夫, 水島伸治, 土岐幸子, 合田紫乃: リンゴ搾汁残渣からペクチンオリゴ糖の簡易製造法とその性状. 産学官連携フェア in 弘前『見てみて, 聞いてみて, 触ってみて, 弘前大学』(弘前).
- f-05. 橋本 勝: 天然物化学の面白さ. 弘前大学ドリーム講座 in 五所川原 (青森).
- f-06. 橋本 勝: 天然物化学の面白さ. 弘前大学ドリーム講座 in 三沢 (青森).
- f-07. 高田 晃, 竹本成孝: *in vitro* 抗抽だい評価法の開発. 産学官連携フェア in 弘前『見てみて, 聞いてみて, 触ってみて, 弘前大学』(弘前).

#### 遺伝子工学研究室

- a-01. NAMEKI, N., SOMEYA, T., OKANO, S., SUEMASA, R., KIMOTO, M., HANAWA-SUETSUGU, K., TERADA, T., SHIROUZU, M., HIRAO, I., TAKAKU, H., HIMENO, H., MUTO, A., KURAMITSU, S., YOKOYAMA, S. & KAWAI, G. Interaction analysis between tmRNA and SmpB from *Thermus thermophilus*. *J. Biochem.* **138**(2005) 729-739.
- a-02. HOKII, Y., KUBO, A., OGASAWARA, T., NOGI, Y., TANEDA, A., ARAI, R., MUTO, A., USHIDA, C. Twelve novel *C. elegans* RNA candidates isolated by two-dimensional polyacrylamide gel electrophoresis. *Gene* **365**(2006) 83-87.
- b-01. 牛田千里, 「線虫にみる RNA 機能の多様性」, 機能性 Non-coding RNA (河合剛太, 金井昭夫 編), 55-68 頁, 2006 年.
- c-01. 姫野俵太: 「10Sa RNA と共に過ごした 13 年」, RNA Network Newsletter, **5**(1), 31-33 (2006).
- c-02. 橋本 勝, 姫野俵太, 村上貴宣, 奥野智且: 新規環状チオペプチドおよびその取得方法. 特願 2006-0580680.
- c-03. 牛田千里: 低分子 RNA の分析方法. 外国出願特許 PCT-JP2006/300078.

- d-01. 栗田大輔, 今野貴之, 佐々木瑠美, 浅野クリスナ, 高田一馬, 武藤 昱, 姫野俵太: Hydroxyradical footprinting による SmpB とリボソームの相互作用の解明, 第 8 回日本 RNA 学会年会 (淡路) (2006).
- d-02. 木村天胤, 村上貴宣, 橋本 勝, 奥野智旦, 武藤 昱, 姫野俵太: 新規抗生物質による RsgA の GTP 加水分解 阻害メカニズムの解析, 第 8 回日本 RNA 学会年会 (淡路) (2006).
- d-03. 高田一馬, 竹本千重, 川添将仁, 今野貴之, 浅野クリスナ, 白水美香子, 横山茂之, 武藤 昱, 姫野俵太: 高度 好熱菌の無細胞翻訳系を用いたトランス・トランスレーション, 第 8 回日本 RNA 学会年会 (淡路) (2006).
- d-04. 木村天胤, 村上貴宣, 橋本 勝, 奥野智旦, 武藤 昱, 姫野俵太: 大腸菌リボソーム小サブユニットで活性化さ れる新規 GTPase (RsgA) に作用する Cyclothiazomycin B1 の作用. 日本農芸化学会 2006 年度大会 (京都) (2006).
- d-05. 村上貴宣, 奥野智旦, 木村天胤, 姫野俵太, 橋本 勝: Cyclothiazomycin B1, B2 の単離・構造決定・RsgA に対 する活性. 新規素材探索研究会 第 5 回セミナー (静岡) (2006).
- d-06. MURAKAMI, T., KIMURA, T., OKUNO, T., HIMENO, H. & HASHIMOTO, M. : Isolation, structure determination, and biological properties of cyclothiazomycins B1 and B2. ICOB-5 & ISCNP-25 IUPAC International conference on Biodiversity and Natural Products (京都) (2006).
- d-07. 牛田千里, 小笠原隆広, 保木井悠介, 武藤 昱: 線虫低分子 RNA のカタログ化, 第 28 回日本分子生物学会年会 (福岡) (2005).
- d-08. Yusuke HOKII, Masayoshi SHIMOYAMA, Akira MUTO, Chisato USHIDA : Characterization of Cen21/CeR-2 RNA, small ncRNA localized in *Caenorhabditis elegans* nucleoli. 第 20 回国際生化学・分子生物学会議 (京都) (2006).
- d-09. USHIDA, C., HOKII, Y., SUGAWARA, Y., MIZUKI, Y., ENDO, Y. & MUTO, A. : Expression of *C. elegans* novel ncRNAs. Regularoty RNAs, the LXXI Cold Spring Harbor Laboratory Sympoium (Cold Spring Harbor) (2006).
- d-10. 保木井悠介, 笹野由未, 藤原俊伸, 坂本 博, 種田晃人, 武藤 昱, 牛田千里: *C. elegans* 低分子 RNA CeR-2 RNA の細胞内局在と生合成, 第 8 回日本 RNA 学会年会 (淡路) (2006).
- d-11. 遠藤優子, 保木井悠介, 牛田千里: *C. elegans* 新規 H/ACA 型 RNA の発現解析. RNA 若手の会 2006 (三島) (2006).
- d-12. 牛田千里: *C. elegans* small RNAs. 新しい ncRNA/RNP を見つける会 (お台場) (2006).
- d-13. 菅原由起, 保木井悠介, 遠藤優子, 牛田千里: ホールマウント RNA-FISH による線虫低分子 RNA の発現解析. 新しい ncRNA/RNP を見つける会 (お台場) (2006).
- f-01. 姫野俵太: tmRNA による trans-translation の分子メカニズム: molecular mimicry?, 弘前大学遺伝子実験施設第 12 回 (竣工 10 周年記念) シンポジウム (弘前) (2006).
- f-02. 姫野俵太, 武藤 昱, 牛田千里, 佐野輝男, 原田竹雄, 鬼島 宏, 種田晃人, 千田峰生: 機能性 RNA を基盤と する新技術開発のための基礎研究とその展開. 産学官連携フェア in 弘前『見てみて, 聞いてみて, 触ってみて, 弘前大学』(弘前) (2006).
- f-03. 牛田千里: 機能未知新規低分子 RNA の機能解析にむけて, 機能性 RNA プロジェクトキックオフミーティング (お台場) (2005).
- f-04. 牛田千里: 線虫新規低分子 RNA の局在, 機能性 RNA プロジェクトコロキウム (お台場) (2005).
- f-05. 牛田千里: 機能未知新規低分子 RNA の機能解析, 機能性 RNA プロジェクト成果報告会 (お台場) (2006).
- f-06. 牛田千里: Functional RNomics in *C. elegans*. 岩手大学 COE フォーラム (盛岡) (2006).

## 細胞工学講座

### 微生物工学研究室

- a-01. 片方陽太郎: 非上皮細胞におけるケラチンの発現. 生化学, **78**, 770-774. 2006.
- a-02. 片方陽太郎・渡辺名歩・加藤陽治: 血管肉腫細胞株での Hsp 47 の再現性と他の HSP 分子について. 第 20 回角 化症研究会記録集, pp. 8-11. 2005.
- a-03. TATARA, Y., YOSHIDA, T., ICHISHIMA, E. : A single free cycteine residue and disulfide bond contribute to the thermostability of *Aspergillus saitoi* 1, 2-*a*-mannosidase. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, **69**, 2101-2108, 2005.
- a-04. AKAO, T., YAMAGUCHI, M., YAHARA, A., YOSHIUCHI, K., FUJITA, H., YAMADA, O., AKITA, O., OHMACHI, T., ASADA, Y., YOSHIDA, T. : Cloning and expression of 1, 2-*a*-mannosidase gene (*fman1B*) from filamentous

fungus *Aspergillus oryzae* : *in vivo* visualization of the FmanIBp-GFP fusion protein. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, **70**, 471-479, 2006.

- d-01. 田島 勇・大町鉄雄 : *Pseudomonas* sp. ON-4a 株の新規 2-アミノチアゾリン-4-カルボン酸加水分解酵素 : 大腸菌形質転換体から ATC 加水分解酵素の精製とその性質. 第 78 回日本生化学会大会 (神戸) 2005.
- d-02. OCHIALI, H., TAKEDA, K., FUKUZAWA, M., KATO, A., SAITO, T., OHMACHI, T. : The PKB/AKT related kinase may be engaged in the transition from the first finger stage to the slug stage. International Conference of Dictyostelium (Dicty2006), (Santa Fe, New Mexico, USA), 2006.
- d-03. KATAGATA, Y., OTSU, K., HIRAYAMA, T. : Expression of HSP (Heat Shock Protein) in cultured human tumor cell lines. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular biology and 11th FAOBMB Congress, (Kyoto) 2006. 6. 21.
- d-04. 片方陽太郎・小田桐弓芽乃・高橋和久 : 植物細胞に中間径線維タンパク質は存在するか? (第 1 報). 第 21 回角化症研究会 (東京) 2007. 8. 5.
- d-05. 吉田 孝・笠島勇也・平井伸明・山口雅子・大町鉄雄 : 麹菌のタンパク質糖鎖に対する GlcNAc 転移酵素発現の影響. 日本農芸化学会大会, 2006. 3.
- d-06. 新谷智行・清水哲哉・中津 亨・加藤博章・吉田 孝・奥野智旦・宮入一夫 : *Stereum purpureum* 由来エンドポリガラクトツロナーゼ I における Asn92 結合糖鎖の熱安定性への関与. 日本農芸化学会大会, 2006. 3.
- d-07. 多田羅洋太\*・難波 剛\*・吉田 孝・一島英治\* : 酸性条件で活性化するプロチロシナーゼのユニークな機構. 日本農芸化学会大会, 2006. 3. (\*創価大学工学部)
- d-08. 小泉英誉・高橋 礼\*・吉田尚生\*・戸谷一英\*・北本則行\*\*・吉田 孝 : Lac 縮合活性を有するセルラーゼの精製. FCCA グライコサイエンス若手フォーラム, 2006. 8. (\*一関高専, \*\*愛知食品工技)
- e-01. 吉田 孝 : 食品・医薬品開発を目的とした新規な酵素の探索. 平成 17 年度青森県学術国際振興基金助成事業研究結果報告, 2006.
- f-01. 佐々木文之, 片方陽太郎 : リンゴ鹿角霊芝の水溶性成分による腫瘍細胞の生育抑制について. 産学官連携フェア in 弘前・「見てみて聞いてみて触ってみて弘前大学」(弘前) 2006. 9. 19.
- f-02. 吉田 孝 : オリゴ糖をつくる酵素・削る酵素. 産学官連携フェア in 弘前「見てみて, 聞いてみて, 触ってみて弘前大学」(弘前) 2006. 9. 19.

### 細胞工学研究室

- a-01. SUGANO, E., TOMITA, H., ISHIGURO, S., ISAGO, H., and TAMAI, M. : Nitric oxide-induced accumulation of lipofuscin-like materials is caused by inhibition of cathepsin S. *Curr. Eye Res.* **31** : 607-616, 2006.
- d-01. 尾崎 卓・富田浩史\*・玉井 信\*・石黒誠一 : ミトコンドリア膜間スペースの  $\mu$ -カルパイン様プロテアーゼの性質. 第 78 回日本生化学会大会 (神戸国際会議場) 2005. 10. (\*東北大学先進医工学研究機構)
- d-02. OZAKI, T., TOMITA, H. \*, Makoto TAMAI, M. \*, ISHIGURO, S. : Presence of  $\mu$ -calpain like protease in the mitochondrial intermembrane space of swine liver. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and 11th FAOBMB Congress. (Kyoto International Conference Hall) (第 20 回国際生化学会) June 19, 2006. (\*Biomedical Engineering Research Organization, Tohoku University, Sendai, Japan)
- d-03. MIZUKOSHI, S. OZAKI, T., ISHIGURO, S., NAKAZAWA, M. \*, OHGURO, H. \* : The change of calpain activity in the retinas of the RCS rats treated with  $Ca^{2+}$  antagonist, Nilvadipine. The Fourth Asian Conference on Vision. (くにびきメッセ, 松江), July 28-August 1. 2006. (\* Department of Ophthalmology, Hirosaki University School of Medicine)
- d-04. 澁谷基世・石黒誠一 : ブタ網膜における局所特異的なタンパクの解析. 平成 18 年度日本動物学会東北支部大会 (山形県立博物館講堂) 2006. 8. 5.
- d-05. 服部安孝・浅井信晴・石黒誠一 : 脳由来神経栄養因子投与によりブタ網膜から放出されるタンパク質の解析. 第 77 回日本動物学会大会 (島根大学) 2006. 9. 21-24.
- d-06. KUDO, K., SASAMORI, E., EBINA, M., KIKUCHI, H. : Identification of amino acid residues involved in the ligand-binding of mouse Ah receptor. 第 78 回日本生化学会 (神戸) 2005.
- d-07. 上野紀子\*・武谷 立\*・宮野 佳\*・菊池英明・住本英樹\* : NADPH オキシダーゼ Nox3 は p22phox 依存性に恒常的にスーパーオキシドを生成する : オキシダーゼ organizer と activator による調節. 第 28 回日本分子生物学会年会 (福岡) 2005. (\*九州大学医学部)
- d-08. 石田真人・Sohel Ahmed・菊池英明 : L-MAT 細胞における TCDD 誘因性アポトーシスでの PKC $\theta$  と Vav の相互



作用の変化. 日本生化学会東北支部第72回例会(弘前) 2006. 5. 13.

- d-09. KOBAYASHI, D., AHMED, S., ISHIDA, M., KASAI, S., KIKUCHI, H. : Intracellular carciul is associated with TCDD induced apoptosis in L-MAT, a human lymphoblastic T-cell line. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress. (Kyoto). June 18-23. 2006.
- d-10. 畠山幸紀・雨森道紘\* : Time Laps Video 撮影によるマウス白血病細胞の運動解析. 第35回日本免疫学会総会・学術集会(パシフィコ横浜) 2005. 12. (\*弘前大学理工学部)
- d-11. 畠山幸紀・雨森道紘\* : 動画解析プログラムを用いたマウス白血病細胞の運動能の解析. 第65回日本癌学会学術総会(パシフィコ横浜) 2006. 9. (\*弘前大学理工学部)
- f-01. 畠山幸紀\* : 科学番組「細胞力覚～生命を支える力の感覚」(曾我部正博 監修, 科学技術振興機構, NTV 映像センター制作) JST サイエンスチャンネル. 2005. (\*資料協力)
- f-02. 畠山幸紀\* : 科学番組「生命に秘められたアポトーシスの謎」(長田重一 監修, 科学技術振興機構, NTV 映像センター制作) JST サイエンスチャンネル. 2006. (\*資料協力)

## 生物生産科学科

## 園芸学講座

- a-01. BAKHSI D. and ARAKAWA O. : Effects of UV-B irradiation on phenolic compound accumulation and antioxidant activity in 'Jonathan' apple influenced by bagging, temperature and maturation. *J. Food, Agri. & Environ.* **4(1)** : 79-83. 2006
- a-02. 荒川 修：リンゴの着色と紫外線. 太陽紫外線防御研究委員会学術報告第15巻第1号 21-24. 2005
- a-03. 浅田武典・堀田拓人：リンゴ樹の結果枝構成に及ぼす品種とせん定の影響. *園芸学研究* **4(4)** : 417-421. 2005.
- a-04. 本多和茂・北藤吉浩\*：低温処理がデルフィニウム園芸品種「サマースカイズ」の発芽および開花におよぼす影響. 専修大学北海道短期大学環境科学研究所報告 **第12号** : 113-115. 2005. (\*JA美唄 苗工房)
- a-05. Ming SUN\*, Shuhuai ZHANG, Yaoguang WEI\*, Dong AN\* : Nondestructive Measurement of Fruit Firmness Using a Laser Doppler Vibrometer, Proceedings the 3<sup>rd</sup> International Conference on Impulsive Dynamic Systems and Application, 1405-1408, 2006 (\*中国農業大学)
- a-06. Kentaro MATSUO\*, Kentaro NISHIWAKI\*, Shu-huai ZHANG, Mikio YASHIRO\* : Development of Experimental Setup for Distinction of Disease Plant, ASABE Paper No. 063016, 1~5, 2006 (\*東北農研センター)
- a-07. 張 樹槐：携帯電話ネットワークによる農業施設の監視・制御システムの構築 —システムの構築及び動作確認実験—, 弘前大学総合情報処理センター広報 HIROIN No. **23**, 41-44, 2006
- a-08. 加藤弘道, 張 樹槐, 福地 博：氷温冷蔵に関する研究, 弘前大学農学生命科学部学術報告 No. **8**, 37~45, 2005
- a-09. 武田純一\*, 鳥巢 諒\*, 張 樹槐, 陳 軍\*, 朱 忠祥\* : 中国における大学の研究動向について, *農業機械学会東北支部報* No. **52**, 25~28, 2005 (\*岩手大学)
- b-01. ARAKAWA O. and KOMORI S. : Apple, Horticulture in Japan 2006, Edited by the Japanese Society for Horticultural Science, Shoukadoh Publication, Dept. of Publishing of Nakanishi Printing Co., Ltd. 34-42 2006
- d-01. マナスイカン タマウオン, 荒川 修：リンゴ4品種における果実の生長と成熟に伴うデンプン, アミロースおよびアミロペクチン含量の変化の比較, *園学雑* **75(別2)** : 129. 2006
- d-02. ARAKAWA O. and BAKHSI D. : Polyphenolics accumulation in 'Fuji' as affected by environmental and physiological factors. The Second International Symposium on Apple Production, 2006
- d-03. 長岐正彦\*, 伊丸岡大斗\*, 嵯峨絃一, 榎 雄二\*\*, 古山種俊\*\*\* : カボチャの組織培養を利用したイソプレノイド合成. 日本化学会第86春季年会. (\*弘前大理工, \*\*山形大理, \*\*\*東北大多元研)
- d-04. 長岐正彦\*, 伊丸岡大斗\*, 嵯峨絃一, 榎 雄二\*\*, 古山種俊\*\*\* : カボチャの組織培養を利用したゲラニルゲラニオール (GGOH) の Biotransformation. 日本化学会第86春季年会. (\*弘前大理工, \*\*山形大理, \*\*\*東北大多元研)
- d-05. 嵯峨絃一, 相馬志穂, 柴谷奈津子 : トウガラシ果肉乾燥粉末の貯蔵過程における内容成分の変化. *園学雑* **75** 別1 : 349. 2006.
- d-06. 長岐正彦\*, 伊丸岡大斗\*, 嵯峨絃一, 西野徳三\*\*, 佐上 博\*\*\*, 大場 亮\*\*\*, 古山種俊\*\*\* : Biotransformationによる抗ガン剤開発の試み. 平成18年度化学系学協会東北大会. (\*弘前大理工, \*\*東北大院工, \*\*\*東北大多元研)
- d-07. 嵯峨絃一, 相馬志穂 : 弘前在来'トウガラシ'果実の緑色期における辛味成分の発現と果色の変化. *園芸学会東北支部平成18年度大会研究発表要旨*. 1-2. 2006.
- d-08. 佐々木和也\*, 嵯峨絃一, 鮫島正純 : 夏季および冬季における GA<sub>3</sub> 処理がシネンシス系デルフィニウムの生育に及ぼす影響. *園芸学会東北支部平成18年度大会研究発表要旨*. 45-46. 2006. (\*青森県農林総研フラワーセンター)
- d-09. 佐々木和也\*, 嵯峨絃一, 鮫島正純 : 日長および温度がシネンシス系デルフィニウムの抽台に及ぼす影響. *園学雑* **75**. 別2 : 367. 2006. (\*青森県農林総研フラワーセンター)
- d-10. 本多和茂・北藤吉浩\* : 低温処理がデルフィニウムの発芽および開花におよぼす影響. *園学雑* **74** 別2 : 226. 2005. (\*JA美唄 苗工房).
- d-11. 本多和茂・澁谷真実・佐藤 恵・嵯峨絃一・小林 勝\* : 弘前公園におけるサクラの花芽分化・休眠および開花に関する研究. *園芸学会東北支部大会平成18年度大会 研究発表要旨* : 49-50. (\*弘前市商工観光部公園緑地課)
- d-12. 片平光彦\*<sup>1</sup>, 田村 晃\*<sup>1</sup>, 張 樹槐, 大泉隆弘\*<sup>2</sup>, 後藤恒義\*<sup>2</sup> : 画像処理によるエダマメの選別方法に関する研究 (第1報) —傷害の発生頻度と選別基準の策定—, *農業環境工学関連7学会2006年合同大会講演要旨集*, 27,

2006 (\*<sup>1</sup>秋田県農業試験場, \*<sup>2</sup>榎山本製作所)

- d-13. 張 樹槐, 片平光彦\*<sup>1</sup>, 田村 晃\*<sup>1</sup>, 大泉隆弘\*<sup>2</sup>, 後藤恒義\*<sup>2</sup>: 画像処理によるエダマメの選別方法に関する研究 (第2報) —エダマメの熟度計測及び傷害検出方法について—, 農業環境工学関連7学会2006年合同大会講演要旨集, 27, 2006 (\*<sup>1</sup>秋田県農業試験場, \*<sup>2</sup>榎山本製作所)
- d-14. 上野有穂, 張 樹槐: 分光反射特性を利用したリンゴ果実表面の打撲傷の検出, 農業環境工学関連7学会2006年合同大会講演要旨集, 35, 2006
- d-15. 張 樹槐, 川田将司, 片平光彦\*<sup>1</sup>, 後藤恒義\*<sup>2</sup>, 大泉隆弘\*<sup>2</sup>: 画像処理によるサヤエンドウの熟度計測, 平成18年度農業機械学会東北支部研究発表会講演要旨, 5~6, 2006 (\*<sup>1</sup>秋田県農業試験場, \*<sup>2</sup>榎山本製作所)
- d-16. 上野有穂, 張 樹槐: 分光反射特性を利用したリンゴ果実表面の打撲傷の検出, 平成18年度農業機械学会東北支部研究発表会講演要旨, 7~8, 2006
- f-01. 張 樹槐: リンゴ果実の内部・外部品質の非破壊的測定方法, 平成17年藤崎農場公開講座「リンゴを科学する」テキスト, 42~47, 2005

## 農業生産学講座

### 作物学教室

- a-01. 松山信彦・高橋 正\*: 黒ボク土のペドロロジーとエダホロジー, (2)分類, 東北の農業と土壤肥料, p 77~80, 日本土壤肥料学会東北支部編, 2006. (\*東北大学大学院)
- a-02. 村山成治・松山信彦・齋藤 司・小田桐正英・工藤啓一: 低投入型稲作に関する研究, 第6報 アイガモ除草を導入した不耕起移植栽培における雑草発生量と水稻の生育・収量, 日本作物学会東北支部会報, 48, 21~23, 2005.
- a-03. 佐々木長市・松山信彦・本多和茂・殿内暁夫・野田香織・佐瀬 隆\*: 白神山地の土壤に関する研究 (3), 白神研究, 3, 45~52, 2006. (\*北方ファイトリス研究室)
- a-04. PONGPATTANASIRI, S.・佐々木長市・松山信彦・野田香織・殿内暁夫: カドミウム汚染水田の浸透型が物質動態および水稻に及ぼす影響, 土壤の物理性, 101, 17~26, 2005.
- d-01. 松山信彦・工藤予志夫\*・境谷栄二\*・殿内暁夫・工藤啓一: 施肥により強酸性化したアロフェン質黒ボク土の特徴, 日本土壤肥料学会, 2006. (\*青森県農林総合研究センター)
- d-02. 岩渕伸雄・村山成治・松山信彦・工藤啓一: 低投入型稲作に関する研究, 第7報 リンゴジュース搾り粕の施用方法と抑草効果の関係, 日本作物学会東北支部講演会, 2006.

### 植物遺伝生態学研究室

- a-01. SUGIYAMA S.: Responses of shoot growth and survival to water stress gradient in diploid and tetraploid populations of *Lolium multiflorum* and *L. perenne*. Grassland Science 52: 155-160. 2006.
- d-01. 杉山修一・二戸奈央子: 気候温暖化に対する牧草の適応ポテンシャル IV. オーチャードグラス自然集団の分布中央と南限集団のアイソザイムによる遺伝変異量の比較. 日本草地学会第61回講演会(筑波農林団地)2006
- d-02. HOSSAIN Z., S. SUGIYAMA: Plant litter effects on the soil microbial community structure-PLFA analysis. The 2<sup>nd</sup> Scientific Congress of East Asian Federation of Ecological Societies. (Niigata University). 2006
- d-03. SUGIYAMA S., Z. HOSSAIN: Grazing intensity and soil microbial community structure in semi-natural grasslands, Japan. The 2<sup>nd</sup> China-Japan-South Korea joint symposium on grassland agricultural and livestock production. (Lanzhou University, China) 2006
- d-04. 大久保敦史・殿内暁夫・杉山修一: ナタネとレンゲ根圏における土壤微生物群集構造の比較. 日本作物学会第221回講演会(東京大学)2006
- d-05. 大久保敦史・殿内暁夫・杉山修一: 根圏微生物群集の作物間差異-PCR-DGGE法による解析. 植物微生物研究会第16回研究交流会(北海道大学)2006
- f-01. 杉山修一: 科学研究費補助金 基盤研究 (B)「気候温暖化による牧草種の衰退原因と適応ポテンシャルの解明」研究成果報告書. 2006

### 畜産学研究分野

- a-01. SUZUKI, H., SATOH, M.<sup>1)</sup> and TOYOKAWA, K.: Changes in distribution of active mitochondria during oocyte maturation and fertilization in the hamster. J. Mamm. Ova Res. 22: 163-169. 2005.
- a-02. SUZUKI, H. and SAITO, Y.<sup>2)</sup>: Cumulus cells affect distribution and function of the cytoskeleton and organelle

in the porcine oocytes. *Reproductive Medicine and Biology*, 183-194. 2006.

- a-03. 松崎正敏: 初期成長期の栄養制御によるプログラミングを利用した家畜の生産能力の向上. *Bio九州* **180**: 6-8, 2006.
- a-04. WALLACE, J.M. \*, MATSUZAKI, M., MILNE, J.S. \*, and AITKEN, R.P. \*: Late but not early gestational maternal growth hormone treatment increases fetal adiposity in overnourished adolescent sheep. *Biology of Reproduction* **75**: 231-239, 2006. (\* Rowett Research Institute)
- a-05. 常石英作\*, 中西雄二\*, 平野 清\*, 小路 敦\*, 松崎正敏, 柴 伸弥\*\*: 放牧牛の半棘筋における機能性成分と遊離アミノ酸の含有量. *西日本畜産学会報* **49**: 103-105, 2006. (\*九州沖縄農業研究センター, \*\*東北農業研究センター)
- d-01. 鈴木裕之: 成熟中のブタ卵における細胞骨格の再配置—とくに卵丘細胞の付着程度の影響—. 第5回 RMB (生殖医学・生物学) 研究会シンポジウム (東京都). 2006.
- d-02. SHIBA, N. \*, WATANABE, A. \*, SUZUKI, T. \*\*, TSUNEISHI, E. \*\*\*, MATSUZAKI, M., HIGUCHI, M. \*, and IWAMOTO, H. \*\*\*\*: Intramuscular collagen characteristics of double-musclcd and normal Japanese shorthorn steers. 52nd International Congress of Meat Science and Technology (Dublin, Ireland), 2006. (\* National Agricultural Research Center for Tohoku Region, \*\* Iwate Agricultural Research Center, \*\*\* National Agricultural Research Center for Kyushu Okinawa Region, \*\*\*\* Kyushu University)

- 1) 佐藤 学 現在は IVF 大阪  
2) 齋藤陽介 現在は宮城県職員

### 生産管理システム学

- a-01. 加藤弘道・張 樹槐・福地 博: 氷温冷蔵に関する研究. *弘前大学農学生命科学部学術報告*, **8**: 37-45, 2005.

## 環境生物学講座

### 植物病理学研究室

- a-01. HARADA, Y., SASAKI, M., SASAKI, Y., ICHIHASHI, Y., SANO, T. : *Monilinia ssiori* sp. nov. in the Sclerotiniaceae, causing leaf blight and young fruit rot of *Prunus ssiori* in Japan. *Mycoscience* **46**(6) : 376-380. 2005.
- a-02. LI, S. \*<sup>1</sup>, QIAN, S. \*<sup>1</sup>, GUO, R. \*<sup>1</sup>, TSUJI, M., SANO, T. ; The first report of *Coleus blumei* viroid from coleus in China. *Plant Pathology* **55** : 565. 2005.
- a-03. LI, S. \*<sup>1</sup>, GUO, R. \*<sup>1</sup>, TSUJI, M., SANO, T. : First reports of two grapevine viroids in China and the possible detection of a third. *Plant Pathology* **55** : 564. 2005.
- a-04. TAKAKI, F., SANO, T., YAMASHITA, K. \*<sup>2</sup> : The complete nucleotide sequence of attenuated Onion yellow dwarf virus: a natural potyvirus deletion mutant lacking the N-terminal 92 amino acids of HC-Pro. *Arch. Virol.* **151** : 1439-1445. 2006.
- a-05. ZHOU, Y. \*<sup>1</sup>, GUO, R. \*<sup>1</sup>, CHENG, Z. \*<sup>1</sup>, SANO, T., LI, S. \*<sup>1</sup> : First report of hop stunt viroid from peach (*Prunus persica*) with dapple fruit symptoms in China. *Plant Pathology* **55** : 564. 2005.
- a-06. QIAN-FU, S. \*<sup>1</sup>, GUO, R. \*<sup>1</sup>, CHENG, Z. \*<sup>1</sup>, SANO, T., LI S. \*<sup>1</sup> : Detection and molecular characterization of *Coleus blumei* viroid in China. *Acta Phytopathologica Sinica* **36**(3) : 226-231. 2006 (in Chinese with English summary).
- a-07. YANG, Y.A. \*<sup>1</sup>, WANG, H.Q. \*<sup>1</sup>, GUO, R. \*<sup>1</sup>, CHENG, Z. \*<sup>1</sup>, M. LI, S. \*<sup>1</sup>, SANO, T. : First report of Hop stunt viroid in Apricot in China. *Plant Dis.* **90** : 828. 2006.
- a-08. TANAKA, K., HATAKEYAMA, S., HARADA, Y. : Three new freshwater ascomycetes from rivers in Akkeshi, Hokkaido, northern Japan. *Mycoscience* **46** : 287-293. 2005.
- a-09. TANAKA, K., HARADA : Bambusicolous fungi in Japan (6) : *Katumotoa*, a new genus of phaeosphaeriaceous ascomycetes. *Mycoscience* **46** : 313-318. 2005.
- a-10. ARAI, S., FUJITA, T., HARADA, Y. : Role of *Cylindrosporium*-type conidia of *Mycosphaerella pomi* (Pass.) Lindau: cause of Brooks fruit spot of apple, as an infection source in apple orchards. *J. Gen. Plant. Pathol.* **71**(5) : 357-359. 2005.
- a-11. MIZUKAMI, S. \*<sup>15</sup>, TAKEDA, K., AKADA, S., FUJITA, T. : Isolation and characteristics of Methanosaeta in paddy field soils. *Biosci. Biotechnol. Biochem.* **70**(4) : 828-835. 2006.



- d-01. 磯野清香・佐野輝男・上森隆司\*<sup>3</sup>・向井博之\*<sup>3</sup>: 等温遺伝子増幅法 (ICAN 法) を用いたキク矮化ウイルスの診断. 日本植物病理学会大会 2006 年 6 月, 札幌市
- d-02. 對馬由記子\*<sup>4</sup>・佐野輝男・向井博之\*<sup>3</sup>・上森隆司\*<sup>3</sup>: リンゴさび果病ウイルス (Apple scar skin viroid) の ICAN (Isothermal and Chimeric primer-initiated Amplification of Nucleic acids) 法による検出. 日本植物病理学会大会 2006 年 6 月, 札幌市
- d-03. 磯野清香・佐野輝男・忠 英一\*<sup>5</sup>・上森隆司\*<sup>3</sup>・向井博之\*<sup>3</sup>: 温遺伝子増幅法 (ICAN 法) を用いたキク矮化ウイルスの発生圃場調査. 日本植物病理学会東北部会 2006 年 9 月, 鶴岡市
- d-04. 星 朱香\*<sup>6</sup>・関根健太郎\*<sup>6</sup>・佐藤加奈子\*<sup>6</sup>・本堂大祐\*<sup>6</sup>・長谷 修\*<sup>6</sup>・佐野輝男・高橋英樹\*<sup>6</sup>: ダイコンモザイクウイルスのゲノム RNA 構造解析と東北地方における発生分布. 日本植物病理学会東北部会 2006 年 9 月, 鶴岡市
- d-05. 原田幸雄・北 真弓・高橋由紀子・飯島 勉\*<sup>7</sup>・難波成任\*<sup>8</sup>・塩崎雄之輔・藤田 隆・佐野輝男: 東京都立川市で発見されたイチヨウ樹のてんぐ巣症 6 株と 2, 3 の原因調査試験. 日本植物病理学会東北部会 200 年 9 月, 鶴岡市
- d-06. 平田行正\*<sup>9</sup>・山下裕子\*<sup>9</sup>・佐野輝男・福井博一\*<sup>10</sup>: In situ RT-LAMP 法を用いたキクわい化ウイルス (CSVd) RNA 視覚化の試み. 日本園芸学会大会, 2005 年度
- d-07. 佐野輝男: 「ウイルスとは」 新潟市民大学「人類とウイルスの共存を考える」. 2005 年 11 月, 新潟市
- d-08. 佐野輝男: 「リンゴ, ナシの火傷病と果実異常症状について」 (財) 長野県果樹研究会 20 周年記念会員大会, 記念講演, 2006 年 3 月, 千曲市
- d-09. SANO, T.: Transgenic potato resistant against multi-plant virus Infection mediated by *pac1*. Institute of Plant Protection, Chinese Academy of Agricultural Sciences, Beijing, China, September 2006
- d-10. SANO, T.: Viroid and its detection, Plant Virus inspection center of China Entry and Exit Inspection and Quarantine Bureau. Beijing, China, September 2006
- d-11. 鈴木陽裕・畠山 聡・田中和明・原田幸雄: シウリザクラ紅点病について. 日本菌学会 2006 年 6 月. 千葉市
- d-12. 和泉恵介・長尾智萌・原田幸雄: ササ・タケ類赤衣病菌 *Stereostromum corticioides* の生活環について. 日本菌学会 2006 年 6 月. 千葉市
- d-13. 田中和明: 日本産プレオスポラ目菌の分類学的研究. 日本菌学会 2006 年 6 月. 千葉市
- d-14. TANAKA, K.: Taxonomy and phylogeny of pleosporalean fungi in Japan. Mycological Society of Japan and British Mycological Society Joint Symposium. Chiba, Japan, June 2006.
- d-15. OKADA, G.\*<sup>11</sup>, TANAKA, K., HUANG, J-W.\*<sup>12</sup>, CHANG, H-S.\*<sup>13</sup>, KAKISHIMA, M.\*<sup>14</sup>: Synnematosus fungi in Taiwan (1). Eighth International Mycological Congress, Cairns, Australia, August 2006.
- d-16. TANAKA, K, OKADA, G.\*<sup>11</sup>: Useful methods for inducing anamorph / teleomorph(s) in culture. Eighth International Mycological Congress, AnaSat 2: From Spore to culture. Cairns, Australia, August 2006.
- d-17. 荒井茂光\*<sup>2</sup>・藤田 隆・原田幸雄: リンゴ黒星病菌偽子のう殻世代の越冬罹病落下果実上での確認. 日本植物病理学会大会 2006 年 6 月, 札幌市
- e-01. 佐野輝男: 「ウイルス」植物病原アトラス—目で見るウイルス・細菌・菌類の世界. 米山勝美他編, 分担執筆, ソフトサイエンス社, 261 ページ, 2006 年, ASIN: 4881711148

- 
- \* 1. 中国農科院植物保護研究所
  - \* 2. 青森県農総研県南果樹
  - \* 3. タカラバイオ (株)
  - \* 4. 青森県農総試リンゴ試験場
  - \* 5. 青森県農総試フラワーセンター
  - \* 6. 東北大学院農
  - \* 7. 東京都立川市
  - \* 8. 東京大学院農生
  - \* 9. 和歌山県アグリバイオセンター
  - \* 10. 岐阜大農
  - \* 11. 理化学研究所バイオリソースセンター
  - \* 12. 台湾国立中興大学
  - \* 13. 台湾中央研究院植物研究所
  - \* 14. 筑波大学
  - \* 15. 農業技術総合研究所つくばセンター

## 昆虫学・進化生態学研究室

- a-01. TRUMAN, J.W., HIRUMA, K., ALLE, J.P., MacWHINNIE, S.G.B., CHAMPLIN, D.T., and RIDDIFORD, L.M. (2006). Juvenile hormone is required to couple imaginal disc formation with nutrition in insects. *Science* **312**, 1385-1388.
- a-02. KESHAN, B., HIRUMA, K., and RIDDIFORD, L.M. (2006). Developmental expression and hormonal regulation of different isoforms of the transcription factor E75 in the tobacco hornworm, *Manduca sexta*. *Dev. Biol.*, **295**, 623-632.
- d-01. HIRUMA, K. (2005). Regulation of the ecdysone-induced cascade of transcription factors that lead to the induction of dopa decarboxylase expression. NIAS/COE International Symposium: Present Status of Studies for Utilization of Insect Properties. Abstract p. 31. October 4-5, 2005. Tsukuba International Congress Center (招待講演).
- d-02. KESHAN, B., HIRUMA, K., and RIDDIFORD, L.M. (2005). The ecdysone-induced early gene E75 in *Manduca sexta* : its developmental regulation and hormonal control in epidermis and developing wing. *Frontiers in Molecular Endocrinology*. Abstract p. 27. December 12-15, 2005. Hyderabad, India (招待講演).
- d-03. HIRUMA, K. (2006). An overview of the molecular aspect of *Manduca* endocrinology. Japan-USA Joint Symposium. Hornworms as Experimental Insects : In Retrospect and Prospect. Abstract p. 5-7. January 28, 2006. Tokyo Silk Hall (招待講演).
- d-04. 比留間潔, RIDDIFORD, L.M. (2006). エクダイソンに誘導される核レセプター, MHR3 と E75B, は転写因子 MHR4 の調節因子であると共に, dopa decarboxylase 発現の阻害因子である. 日本応用動物昆虫学会第 50 回大会. 講演要旨 p. 33. 2006 年 3 月 27-29 日. 筑波大学.
- d-05. 金城輝則, 比留間潔, 三田和英, 篠田徹郎 (2006). カイコのアラタ体における JH 生合成酵素と転写因子 E75 の発現解析. 日本応用動物昆虫学会第 50 回大会. 講演要旨 p. 33. 2006 年 3 月 27-29 日. 筑波大学.
- d-06. TRUMAN, J.W., HIRUMA, K., ALLEE, J.P., MacWHINNIE, S.G.B., CHAMPLIN, D., and RIDDIFORD, L. M. (2006). A direct role of JH in the control of imaginal disc formation and growth in *Manduca*. Fly Meeting, 2006 Ecdysone Workshop Wednesday, March 29, 2006, Lanier Grand Ballroom A, Hilton Americas, Houston, TX.
- d-07. TRUMAN, J.W., HIRUMA, K., ALLEE, J.P., MacWHINNIE, S.G.B., CHAMPLIN, D., and RIDDIFORD, L.M. (2006). A direct role of JH in the control of imaginal disc formation and growth in *Manduca*. The 5th International Symposium on Molecular Insect Science. May 20-24, 2006. Tucson, AZ.
- d-08. HIRUMA, K., and RIDDIFORD, L.M. (2006). The coordination of the sequential appearance of MHR4 and dopa decarboxylase during the decline of the ecdysteroid titer at the end of the molt. The 16<sup>th</sup> International Ecdysone Workshop. Abstract p. 64. July 10-14, 2006. Ghent, Belgium.
- d-09. SHINODA, T., KINJOH, T., MITA, K., and HIRUMA, K. (2006). Cloning and expression analysis of juvenile hormone biosynthetic enzymes and E75 isoforms in the silkworm, *Bombyx mori*. The 7<sup>th</sup> International workshop on Molecular Biology and Genetics of the Lepidoptera. August 20-26, 2006. Kolympari, Crete, Greece.
- d-10. 水口智江可, 比留間潔, RIDDIFORD, L.M. (2006). *Manduca sexta* 皮膚における *molting* 遺伝子の発現誘導機構. 昆虫ワークショップ 06 金沢. 2006 年 9 月 13-15 日. 石川県青少年総合研修センター.
- d-11. 城田安幸, 阿部練平<sup>1)</sup>: りんご (*Malus domestica*) の抗腫瘍効果 (6) 母親がリンゴジュースを飲むことで, 子供, 孫世代の免疫力が高まる. 日本癌学会第 65 回総会, 2006. (<sup>1)</sup>東北大学大学院 農学研究科 生物産業創成)
- d-12. 城田安幸・井戸川基規・加藤 彰・松井佳之・金子悠太: 無農薬りんご園の害虫管理 (2) 交信攪乱法によるモモンカイガの管理. 第 50 回日本応用動物昆虫学会大会, 2006.
- f-01. 城田安幸: 「免疫力を高めてガンの発生を防ぎ血糖値まで下げるとわかったリンゴジュース」壮快 1 月号 P184-185, 2006.
- f-02. 城田安幸: 免疫力を高める, 無農薬未熟果汁入りリンゴジュース. アグリビジネス創出フェア 2005 (ブース展示及びプレゼン発表), 2005.
- f-03. 城田安幸: リンゴはヒトの免疫力を高める. 弘前市農村活性化推進協議会主催 第 5 回「食を考える集い」基調講演, 2006.
- f-04. 城田安幸: リンゴと健康. 青森県りんご対策協議会主催「在京マスコミ関係者との懇談会」基調講演, 2006.
- f-05. 城田安幸: 空飛ぶ目玉クワイコー 25 年の選択実験から見えてきたこと. 日本昆虫学会 東北支部 青森県談話会 特別講演, 2005.



## 動物生態学・野生生物管理学研究室

- a-01. SAWARA, Y. and K. SATOU : Feeding activity rhythm of juvenile gobiid fish, *Chaenogobius gulosus*, at tidally different localities. Bull. Fac. Agr. Life Sci., **8**, 29-36. 2005
- a-02. ENDO, N., Y. SAWARA, R. KOMATSU and M. OHTSUBO : Diel activity patterns of presence and absence from a heronry and post-breeding roosts observed in radio-tagged Black-crowned Night Herons *Nycticorax nycticorax*. Ornithol. Sci., **5**, 113-119. 2006
- a-03. KASAI, A., H. TOYOHARA, A. NAKATA, T. MIURA and N. AZUMA : Food source for the bivalve *Corbicula japonica* in the foremost fishing lakes estimated from stable isotope analysis. Fisheries science **72** : 105-114, 2006
- a-04. 泉 完・矢田谷健一・東 信行・工藤 明：河川流下水を用いたスタミナトンネルによるウグイの突進速度について. 農業土木学会論文集 244 巻, 171-178, 2006
- b-01. 佐原雄二：谷内ほか（編）「魚の科学事典」3章1節 食性. 158-171 ページ. 朝倉書店. 2005
- b-02. 佐原雄二：日本陸水学会（編）「陸水の事典」講談社. 2項目, 2006
- c-01. 佐原雄二：青森県のメダカの歴史と現状. 市史研究あおもり, **8**, 1-12., 2006
- c-02. 佐原雄二：汽水・淡水魚類. 「青森県の希少な野生生物—青森県レッドリスト（2006年 改訂増補版）—」56-58 ページ. 青森県, 2006
- c-03. 佐原雄二：汽水・淡水魚類. 「青森県外来種対策学術調査報告書—青森県外来種リスト—」32-33 ページ, 67-71 ページ. 青森県, 2006
- d-01. SAWARA, Y., T. ADACHI, Y. TAKATSUJI and M. ISOGAI : Declines in small piscivorous birds due to exotic fish in Japan, and the importance of hypoxic ponds as a feeding environment. 24th International Ornithological Congress. (Hamburg), 2006
- d-02. NUMATA, S., K. TAKEUCHI and N. AZUMA : Breeding site preferences of the Japanese Marsh Warblers in managed reedbeds in Japan. 24th International Ornithological Congress. (Hamburg), 2006
- d-03. AZUMA, N., A. INADA, T. OZAKI, S. SATO and H. EBISAWA : Colonization of apple orchards by Ural owls. 24th International Ornithological Congress. (Hamburg), 2006
- d-04. 東 信行・東 美苑・岩崎康生・水野直樹：北と南のメダカの成長と摂餌・遊泳行動の比較, 平成 18 年度日本水産学会大会, 2006
- d-05. 東 信行・五十嵐勇気・佐藤孝司・石井健太郎・佐原雄二：小河川における魚類群集の密度変化は温暖化によるものか?, 平成 18 年度日本水産学会大会, 2006
- d-06. 笠井亮秀・豊原治彦・三浦常廣・東 信行：安定同位体による汽水湖におけるヤマトシジミの食性の推定, 平成 18 年度日本水産学会大会, 2006
- d-07. 和田 実・七里朋子・古林千春・東 信行・塚本久美子・水野直樹・鈴木 譲：青森県十三湖で採集されたヒイラギ稚魚の発光器官における *P. leiognathi* について, 平成 18 年度日本水産学会大会, 2006
- d-08. 伊藤 忍・東 信行：温暖化に伴うカジカ大卵型 (*Cottus pollux*) の成長特性の変化と個体群崩壊, 応用生態工学会 第 10 回研究発表会, 2006
- d-09. 山谷彩子・小西あや・百瀬麦子・東 信行：ため池における魚類および魚食性鳥類の生息場選択と環境構造, 応用生態工学会 第 10 回研究発表会, 2006
- d-10. 東 信行：偶然から必然へ ～偶然成り立つ野鳥との共生～ 日本鳥学会 2006 年大会公開シンポジウム「野鳥の保護は農林業と共存可能か」, 2006
- e-01. 東 信行：平成 17 年度岩木川左岸農業水利事業地区内生態系調査業務報告書, 農林水産省東北農政局津軽農業水利事務所, 2006
- f-01. 山田裕之・東 信行：津軽地方における森林性小型哺乳類の巣箱利用, 青森自然誌研究 11, 69-73, 2006
- f-02. 東 信行：岩木川・河川環境フォーラム記録集 ～津軽ダムで何が変わるか～, 国土交通省東北地方整備局, 74pp, 2005

## 地域環境科学科

### 地域環境工学講座

- a-01. 山下祐介\*・澤田信一・田中重好\*\*・工藤 明：河川流域社会における共通理解の構築と合意形成—岩木川流域での試み—, 環境科学会誌 **19(4)** : 309-318, 2006. 7. (\*弘前大学人文学部, \*\*名古屋大学大学院環境学研究科)
- a-02. 管 化冰・工藤 明・泉 完：循環灌漑地区における降雨の有効利用に関する研究, 日本雨水資源化システム学会誌 **12-1** : 25-30, 2006. 7.
- a-03. 泉 完・工藤 明：水クッション型落差工の流水音調査について, 農業土木学会論文集, **No. 240** : 81-88, 2005.
- a-04. 泉 完・矢田谷健一\*・東 信行・工藤 明：河川流下水を用いたスタミナトンネルによるウグイの突進速度について, 農業土木学会論文集, **No. 244** : 171-178, 2006. (\*(株)建設技術研究所東北支社)
- a-05. 佐々木長市・松山信彦・本田和茂・殿内暁夫・野田香織・佐瀬 隆\*：白神山地の土壌に関する研究 (3), 白神研究, **第3号**, 45-52, 2006. (\*北方ファイトリス研究室)
- a-06. 佐藤幸一\*・徳永光一\*\*・佐々木長市・佐瀬 隆\*\*\*：岩手県北部火山灰累層の中部, 下部更新統における根成孔隙の劣化とその分級, 農土論集, **243号**, 101-112, 2006. (\*北里大学, \*\*岩手大学名誉教授, \*\*\*北方ファイトリス研究室)
- a-07. Choichi SASAKI : Experimental study on the influence of percolation patterns on the removal of soluble elements in stratified alluvial-soil paddy fields for rice, Paddy Water Environ, 4, pp. 89-99, 2006.
- a-08. 加藤 幸・片山寿伸\*：「食の安全」への取組みと農業土木分野の関連性, 農業土木学会誌, **Vol 73 / No. 12**, 1093-1097, 2005. 12. (\*片山りんご有限会社・日本 GAP 協会)
- a-09. 谷口建・佐藤正彦\*\*・藤崎浩幸・加藤 幸：地域資源と人材による町おこし, 農業土木学会誌, **Vol 74 / No. 1**, 11-15, 2006. 1. (\*\* NPO 法人尾上蔵保存利活用促進会)
- c-01. 工藤 明・管 化冰：降雨時の流出負荷量に関する研究, 東北地域災害科学研究 **第42巻** : 35-40, 2006. 3.
- d-01. 管 化冰・工藤 明・泉 完：循環灌漑地区における降雨の有効利用に関する研究, 日本雨水資源化システム学会第13回研究発表会講演要旨 : 81-86, 2005. 11.
- d-02. 管 化冰・工藤 明・泉 完：水田地帯における降雨時の流出負荷について, 平成18年度農業土木学会大会講演要旨 7-34, 2006. 8.
- d-03. 伊東竜太・矢田谷健一・泉 完・工藤 明・東 信行：全面越流型階段式魚道における魚類等の遡上特性—岩木川取水堰魚道の事例—, 平成17年度農業土木学会応用水理研究部会講演集, 1-6, 2005. 12.
- d-04. 矢田谷健一・伊東竜太・泉 完・工藤 明・東 信行：自然河川水を用いた現地実験における淡水魚の突進速度と遊泳距離, 平成17年度農業土木学会応用水理研究部会講演集, 7-12, 2005. 12.
- d-05. 泉 完・工藤 明・東 信行・矢田谷健一・伊東竜太：自然条件下におけるスタミナトンネルを用いた淡水魚の突進速度, 平成18年度農業土木学会大会講演要旨, 116-117, 2006. 8.
- d-06. 泉 完・工藤 明・東 信行・伏見佳奈子：粗石付き斜路型魚道における魚類等の遡上実態とその行動, 平成18年度農業土木学会大会講演要旨, 652-653, 2006. 8.
- d-07. 佐々木長市・野田香織・成田瑞季・坂口良介・川島一就：鉍由来のCd汚染水田土壌モデルの浸透型が稲の重金属吸収に及ぼす影響, 農業土木東北支部大会, 118-119, 2005
- d-08. 佐々木長市・B. K. MITRA・江成敬次郎\*・藤田光則\*・山本太平\*\*：屏風山砂丘畑における地下水の水質変動, 日本砂丘学会第53回全国大会, 22-23, 2006.
- d-09. Choichi SASAKI, Tomoka TAKIZIRI, Nobuhiko MATUYAMA, Bijon Kumer MITRA, Leping YUE\*, Koh-ichi TOKUNAGA\*\*, Kouichi TAKEYAMA\*\*\* : Studies on physical and chemical properties of aerolian soil at Xi'an in China, 中日拠点大学交流シンポジウム要旨, 31-36, 2006. (\*西北大学, \*\*岩手大学名誉教授, \*\*\*島根大学)
- d-10. 佐々木長市・上西訓生・野田香織・川島一就・松山信彦・成田瑞季：カドミウム汚染水田モデルの浸透型が物質動態および水稻に及ぼす影響 (IV), 平成18年度農業土木学会講演要旨, 974-975, 2006.
- d-11. 角野三好, 五十嵐悠也, 吉田和史\*, ヘルシヨーモデルによる傾斜遮水ゾーン型フィルダムの浸潤線について (2), 農業土木学会大会, 2006. 8. (\*福島県土地改良連合会)
- d-12. 加藤 幸・片山寿伸 ほか, 映像によるトレーサビリティ情報を活用した食の安全の確保に関する研究, 農業土木学会大会, 2006. 8. (\*片山りんご有限会社・日本 GAP 協会)
- d-13. 万木正弘・渡部均\*・渡邊賢三\*\*, 炭酸イオンを含む溶液のモルタル侵食性試験, 農業土木学会大会, 2006. 8. (\*東北農政局, \*\*鹿島技術研究所)

- e-01. 工藤 明：新城下堰浄化施設の効果検証，全 48 頁，2006. 3.
- e-02. 工藤 明：環境負荷軽減水管理技術確立調査報告書，全 37 頁，2006. 3.
- e-03. 泉 完：岩木川左岸幹線水路落差工の流水音調査報告書，全 54 頁，2006. 3.
- e-04. 万木正弘：循環型社会の構築に向けた水利構造物の維持管理，平成 17 年度東北農政局管内農業農村整備事業推進方策検討業務報告書，農業土木学会，2006.
- f-01. 佐々木長市：オーストラリアの世界遺産を見て，白神研究，第 3 号，11-13, 2006.

### 地域環境計画学講座

- a-01. 谷口 建・佐藤正彦・藤崎浩幸・加藤 幸：地域資源と人材による町おこし，農業土木学会誌，**74-1**, 11-15, 2006.
- a-02. 藤崎浩幸・山路永司：標準区画から脱却し創造的な大区画圃場を目指せ！，農業土木学会誌，**74-9**, 801-804, 2006.
- a-03. 藤崎浩幸：認定農業者親子間の就農誘導と就農意欲一岩手県盛岡市での意識調査一，弘前大学農学生命科学部学術報告，**8**, 52-57, 2005.
- a-04. 小笠原康雄・加藤陽治・藤崎浩幸：青森県の転作水田におけるアピオス栽培の可能性，弘前大学農学生命科学部学術報告，**8**, 46-51, 2005.
- a-05. 小原嬢子・森屋 洋・桧垣大助：秋田県谷地地すべり地における地すべりの発達過程からみた微地形と内部構造。地形，**27(3)**, 301-318, 2006.
- a-06. GHIMIRE, S. K., HIGAKI, D. and BHATTARAI, T.P., 2006 : Gully erosion in the Siwalik Hills, Nepal : Estimation of sediment production from active ephemeral gullies. Earth Surface Processes and Landforms, **31**, 155-165, 2006.
- a-07. 桧垣大助・宮城豊彦・八木浩司・千葉則行・森屋 洋：2006 年大舟木地区で発生した地すべり災害。地すべり，**43(2)**, 38-40, 2006.
- d-01. 高橋照夫：ステレオ視法によるリンゴ園果実群の三次元位置計測（第 2 報）。農業環境工学関連 7 学会 2006 年合同大会講演要旨集，CD-ROM, 2006. 9.
- d-02. ガウリ・マハルジャン・高橋照夫：画像特徴を利用した植物病名の検索システムに関する研究—イネの病気の色特徴による分類と検索法に関する検討—。農業環境工学関連 7 学会 2006 年合同大会講演要旨集，CD-ROM, 2006. 9.
- d-03. 桧垣大助・小原嬢子・高橋明久：秋田県砥沢地すべり地における地形と移動体内部構造。第 45 回日本地すべり学会研究発表会講演集，63-66. 2006.
- d-04. 小原嬢子・桧垣大助：秋田県南部珪質泥岩地域における地すべり地の微地形と内部構造，第 45 回日本地すべり学会研究発表会講演集，67-70. 2006.
- e-01. 小林裕志・谷口 建・他 4 名：干拓地を対象に農業と野生生物との共生を意図した環境教育牧場創出の実証実験，平成 15-17 年度科学研究費補助金（基盤研究（B）(2)），108-181, 2006.
- e-02. 谷口 建・藤崎浩幸：弘前市のグリーン・ツーリズムに関する調査研究，平成 17 年度弘前市委託研究報告書，1-43, 2006.
- e-03. 谷口 建・田村義夫・田村えり子・佐々木義博：グリーン・ツーリズム情報発信コアセンター・地域サテライトネットワークモデル構築研究，平成 17 年度青森県農林水産部構造政策課委託研究報告書，1-32, 2006.
- e-04. 谷口 建・つがる里山体験塾：北のまほろば ぐるっと青森グリーン・ツーリズムマップ，2006.
- f-01. 小原嬢子・桧垣大助：平成 17 年度砂防学会ワークショップ成果概要報告「不安定斜面の自然環境の多様性とそれを考慮した対策計画」，砂防学会誌，**59(1)**, 61, 2006.

### 地域資源経営学講座

- a-01. 宇野忠義：最重要病害リンゴ火傷病の日米検疫問題。弘前大学農学生命科学部学術報告 **第 8 号** : 88-101, 2005. 12.
- a-02. 宇野忠義：最重要病害リンゴ火傷病の日米検疫問題の交渉経過と残された問題。農業・農協問題研究 **第 35 号** : 75-89（農業・農協問題研究所，2006. 8）
- a-03. 高橋秀直：住宅解体材リサイクルの現状と課題。弘前大学経済研究 **第 28 号** : 12-32, 2005. 12.
- a-04. 小林俊介・澁谷長生：大鱈温泉もやしに関する研究。弘前大学農学生命科学部学術報告，**第 8 号**，64-87 頁，2005, 12.
- a-05. Masami IZUMIYA : Characteristics of the Recycling Channels for Apple Pomace. BULLETIN of the



FACULTY OF AGRICULTURE AND LIFE SCIENCE HIROSAKI UNIVERSITY (8) : 58-63, 2005.

- b-01. 神田健策:「新編 弘前市史」編纂委員会編集:新編 弘前市史 通史編 4 (近・現代1)』(農業史担当), 弘前市, 2005. 10.
- b-02. 神田健策:「新編 弘前市史」編纂委員会編集:新編 弘前市史 通史編 5 (近・現代2)』(農業史担当), 弘前市, 2005. 11.
- b-03. 神田健策:特産物(こかぶ)生産で地域農業の活性化をはかる小規模農協—青森県野辺地町農協の事例—. 吉田・渡辺・大木・西山編:食と農を結ぶ協同組合, 53-71, 筑波書房, 2006. 6.
- b-04. 澁谷長生:宮城県における産直の新しい挑戦. 吉田・渡辺・大木・西山編:食と農を結ぶ協同組合, 53-71, 筑波書房, 2006. 6.
- b-05. 平石学\*・志賀永一\*\*・泉谷眞実・板橋 衛\*\*\*:十勝農業の変動と地域農業の対応. 牛山敬二・岩崎 徹編著:北海道農業の地帯構成と構造変動. 北海道大学図書刊行会, 307-323, 2006. \*北海道立中央農業試験場, \*\*北海道大学, \*\*\*広島大学
- d-01. 宇野忠義:中国産りんご果汁輸出の急増が日本のリンゴ経営に与えた影響. 第3回中日学術研究会, 中国内蒙古フフホト市, 2006. 8.
- d-02. 神田健策:戦後日本資本主義と農業—その現段階と協同組合運動—. 瀋陽農業大学学術講演会, 中国瀋陽市, 2005. 11.
- d-03. 宋 曉凱・神田健策:生産過剰期における中国りんご生産・流通構造に関する研究—山東省栖霞市の事例—日本農業市場学会2006年度大会個別報告, 弘前大学 2006. 7.
- d-04. 宋 曉凱・神田健策:中国におけるりんご流通と卸売市場の設立—山東省・栖霞市の事例—. 日本流通学会北海道・東北部会研究例会, 宮城学院女子大学, 2006. 9.
- d-05. K. KANDA ; Recent changes in the Japanese society and the role of non-profit and cooperative organizations. Cooperative Seminar, Mid Sweden University. 2006. 9.
- d-06. K. KANDA ; Current China and the situation of Co-operatives. Cooperative Seminar, Mid Sweden University. Ostersund, 2009. 9.
- d-07. 森 久綱\*・泉谷眞実:食品加工残渣の飼料利用におけるリサイクル経路に関する考察. 日本流通学会, 名古屋大学, 2005. 10. \*三重大学
- d-08. 泉谷眞実:農業静脈市場における需給調整様式の多段階性. 日本農業市場学会個別報告, 弘前大学, 2006. 7.
- d-09. 杉村泰彦\*・泉谷眞実:青果物卸売市場における残品発生の実態とその発生要因. 2006年度日本農業市場学会大会個別報告, 弘前大学, 2006. 7. \*酪農学園大学
- e-01. 青森県6次産業研究会(代表 神田健策)『青森県農林水産振興のための第6次産業ビジョン策定事業報告書』(平成17年度 むつ小川原地域・産業振興プロジェクト事業), 1-58, 2006. 4.
- e-02. 武田共治・谷田親彦:弘前大学4年生の視点に基づく21世紀教育の成果と課題. 21世紀教育フォーラム. 創刊号, 41-52, 弘前大学21世紀教育センター, 2006. 3.
- e-03. 泉谷眞実:農業静脈市場に関する主要文献と論点. 玉真之介研究代表:農業市場の制度問題と分析モデルに関する統合的研究, 基盤研究(B)報告書(初年度). 89-100, 2006.
- e-04. 泉谷眞実:農業(雇用)労働市場に関する主要文献と論点. 玉真之介研究代表:農業市場の制度問題と分析モデルに関する統合的研究, 基盤研究(B)報告書(初年度). 108-119, 2006.
- f-01. 宇野忠義:火傷病防疫指針(案)にもの申す. りんごニュース第2665号:青森県りんご協会, 2006. 1. 25.
- f-02. 宇野忠義:最重要病害りんご火傷病の日米検疫問題の交渉経過と残された問題. りんご火傷病研究報告会報告資料, 1-11, (津軽農民組合, 藤崎町文化センター, 2006. 6)
- f-03. 神田健策:中国三農問題と農産物流通・販売の課題. りんご振興研究センター発足記念シンポジウム・弘前大学農学生命科学部, 2006. 12.
- f-04. 泉谷眞実:農業未利用資源をもちいた地域づくりの方法と課題. 弘前大学農学生命科学部公開講座, 2005. 10, 弘前大学.

## 生物共生教育研究センター

- a-01. 村山成治・松山信彦・齋藤 司：低投入型稲作に関する研究 第6報 アイガモ除草を導入した不耕起移植栽培における雑草発生率と水稻の生育・収量. 日本作物学会東北支部会報 47 : 21-23, 2005.
- a-02. 伊藤大雄・杉浦俊彦<sup>1</sup>・黒田治之<sup>2</sup>：ニホンナシ園における蒸発散速度の解明と日蒸発散量の推定. 農業気象 62 (1), 23-32 (2006). (<sup>1</sup>農業・生物系特定産業技術研究機構, <sup>2</sup>鹿児島大学農学部)
- d-01. Takuro KIKUCHI and Yunosuke SHIOZAKI : Flat-Canopied Open Center Trees: A New Direction for Apple Orchard Systems. 27th International Horticultural Congress and Exhibition. Workshop 17 : Orchard Systems. 71. Seoul, Korea (2006).
- d-02. 塩崎雄之輔・藤田知道・笹亜希子・木村錦昭：リンゴの白根と新梢の生長に及ぼす台木の種類と着果の影響. 園芸学会東北支部平成18年度大会 研究発表要旨 19-20 (2006).
- d-03. 塩崎雄之輔・村木裕俊・藤田知道：豪雪によるリンゴの枝折損被害と樹の仕立て方の関係, 並びにネズミの食害誘発. 園芸学会東北支部平成18年度大会 研究発表要旨 21-22 (2006).
- d-04. 岩渕伸雄・村山成治・松山信彦・工藤啓一：低投入型稲作に関する研究 第7報 リンゴジュース搾り粕の施用方法と抑草効果の関係. 日本作物学会東北支部講演会, 2006.
- d-05. 伊藤大雄・小笠原清訓・藤田 隆・澤田 勲：農薬不使用リンゴ園における転換2～3年目の病虫害発生と収量・品質. 園学要旨平18東北支部, 23-24 (2006).
- f-01. 塩崎雄之輔：リンゴ30年余の施肥試験と草生栽培から学んだもの. 藤崎農場公開講座「リンゴを科学する」平成17年度テキスト, 52-59. (2005)
- f-02. 塩崎雄之輔：これからのリンゴの栽培方式について考える (記念講演要旨). 第53回全国りんご研究大会 北海道大会プログラム, 21-26 (2006).
- f-03. 伊藤大雄：リンゴの減農薬・無農薬栽培に向けたあの手この手. 「りんごを科学する」平成17年度テキスト, 1-8 (2005).
-